

## 東京2020オリンピック・パラリンピックについて

### 1 大会終了後の主な取組について

#### (1) 神奈川・横浜アスリート感謝会～おうちからARIGATOを届けよう！～

多くの勇気と希望を与えてくれた、神奈川県や横浜市にゆかりのある選手に対し、感謝の声を伝えるとともに、選手が大会に挑んだ思いを伝えるオンラインイベントを神奈川県と共に開催しました。

日 程：2021年9月26日（日）

出演者：山田恵里選手（ソフトボール金メダリスト）、  
富田宇宙選手（パラリンピック水泳銀メダリスト）、  
古澤拓也選手、鳥海連志選手（車いすバスケットボール銀メダリスト）



#### (2) 横浜市スポーツ栄誉賞贈呈式

東京2020大会において、メダルを獲得された横浜市ゆかりの22名の選手に、横浜市スポーツ栄誉賞を贈呈しました。

日 程：2021年10月16日（土）

出席者：文田健一郎選手（レスリング男子グレコローマンスタイル  
60kg級 銀メダル）  
屋比久翔平選手（レスリング男子グレコローマンスタイル77kg級 銅メダル）  
富田宇宙選手（競泳男子400m自由形S11 銀メダル、競泳男子100mバタフライS11  
銀メダル、競泳男子200m個人メドレーSM11 銅メダル）



#### (3) 横浜市・都市ボランティア感謝会

約3年に渡り準備を共に進めてきた、都市ボランティアの皆様への感謝を込めて、感謝会を開催しました。都市ボランティアの皆様には、City Castのユニフォームを着用して参加いただき、市長から感謝状の贈呈や、オリンピック等によるトークセッションなどを行いました。

日 程：2021年10月16日（土）

参加人数：約700名（うち、約100名はオンラインで参加）



#### (4) 東京2020オリンピック・パラリンピックを成功させる

##### 横浜市議員の会解散総会

市内両競技会場の視察や、橋本聖子五輪担当大臣(当時)、JOC山下泰裕会長への要望活動など、令和2年2月設立以降の活動報告及び大会組織委員会による講演が行われ、会の活動が締めくくられました。

日 程：2021年10月22日（金）



#### (5) ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会総会

平成28年11月の設立以降、ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020大会の成功に向けて、経済団体や交通事業者等の皆様と取組を進めてきました。東京2020大会の終了を機に役割を終えるため、総会を開催し、横浜開催に係る報告やパラリンピアンによる講演を行い、当委員会を解散しました。

日 程：2021年12月3日（金）



## 2 横浜ビジョンに基づく「横浜市の取組」について

ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピック（以下、「両大会」という。）の成功に貢献することを目的に、4つの取組の柱を定め、基本姿勢や取組などをまとめた「横浜ビジョン」を策定しました。また、この「横浜ビジョン」の実現に向け、各区局統括本部の主な取組を「横浜市の取組」としてまとめ、オール横浜で様々な取組を進めてきました。

この度、両大会の終了に伴い、平成 29 年度から令和 3 年度までの取組の総評をまとめました。

### ■取組の 4 つの柱及び総評（参照：別添資料「横浜市の取組 令和 3 年度 取組状況 総評」）

■取組の 4 つの柱及び総評（参照：別添資料「横浜市の取組 令和 3 年度 取組状況 総評」）	
<p><b>【柱 1】 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし</b></p> <p>(1) 危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を通じて、神奈川県警察や大会組織委員会等の関係機関と連携し、危機管理体制を確立することで、安全安心な大会運営を行うことができた。</li> </ul> <p>(2) 医療救護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言下で市内の医療救護体制を維持しながら大会を運営するため、大会関係者の診療について、市内医療機関や神奈川県、大会組織委員会と連携し、受入れを行う医療機関の役割を、対象者や程度等に応じて整理するなど、オール横浜で対応にあたった。</li> </ul> <p>(3) ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を契機に、横浜市スポーツボランティアセンターに登録いただいた方が、約 13,000 名となり、今後、育成や活動の場の確保を進めていく。</li> <li>・都市ボランティアの方々の活動は、無観客開催等に伴い、大会期間中の活動は中止としたが、10月に感謝会を開催するとともに、様々な分野でのボランティア活動を紹介するなど、今後のボランティア活動につなげる取組を実施した。</li> </ul> <p>(4) 会場整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会場となった横浜スタジアムと横浜国際総合競技場では観客席やバリアフリー対応の整備を行い、国際的大会の開催に、より相応しい仕様のスタジアムとなった。</li> <li>・横浜国際総合競技場は、2002FIFA ワールドカップ™、ラグビーワールドカップ 2019™の決勝に続き、東京 2020 大会のサッカー競技決勝が行われ、世界三大スポーツイベントの決勝が開催された、世界で唯一の会場となった。</li> </ul> <p>(5) 多文化共生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所窓口等への ICT 通訳・翻訳機器の配備や、国際交流ラウンジへのフリーWi-Fi の設置等を通じて、コロナ禍でも外国人が安全・安心に相談対応・情報提供が受けられるよう環境整備を行った。</li> <li>・多文化共生市民活動支援補助金の交付や国際交流ラウンジへの地域活動コーディネーターの配置（4区）などにより、地域における多文化共生や国際交流の活動の育成・支援に取り組んだ。</li> </ul> <p>(6) 交通輸送</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を通じて、庁内だけでなく各交通機関や民間企業との連携体制を構築したことで、駅構内放送での周知や各所へのポスター掲示などの広報が可能となり、大きな混乱なく大会を終えることができた。</li> </ul>	<p>P. 3～ P. 10</p>

<p><b>(7) 機運醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を通じて、SNS やウェブサイトを活用した情報発信を積極的に行うとともに、競技団体・スポンサー企業（大会パートナー企業）・地域団体等と連携し、節目を捉えたイベントを開催することができた。</li> <li>・ラグビーワールドカップ 2019™ において、事前のテストマッチ及び本番で「ファンゾーン」を実施したことにより、大きな盛り上がりを作ることができた。</li> <li>・東京 2020 大会では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、東京 2020 ライブサイト・パブリックビューイングは中止となったが、オンラインを活用して情勢に即した情報発信を行った。</li> </ul> <p><b>(8) トレーニングキャンプの受入れやホストタウンの取組を通じた国際交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を通じて、トレーニングキャンプを受け入れ、関係機関から高い評価を得るとともに、選手の大会でのパフォーマンス発揮に寄与した。</li> <li>・東京 2020 大会では、万全な感染症対策を講じた上で、12 か国、約 800 名に及ぶ選手団・スタッフを受け入れ、1 人の陽性者も出すことなく終了した。また、オンライン等を活用して交流を実施することができた。今後も機会を捉え、各国とのつながりを継承していく。</li> </ul> <p><b>(9) 暑さ対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内で効果的な取組を整理するとともに、民間企業との協力体制を構築した。無観客開催により、暑さ対策の効果検証はできなかったが、今後の夏季イベント開催時の基礎資料として活かしていく。</li> </ul>	
<p><b>【柱 2】スポーツを通じて横浜を元気に</b></p> <p><b>(1) スポーツの意欲向上と地域スポーツの振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を契機に、児童・生徒が元ラグビー日本代表やオリンピック・パラリンピアンと交流し、大会の機運醸成のほか、運動意欲の向上やスポーツ振興に繋がった。</li> <li>・子どもたちのパラスポーツ体験等を通じて、障害の特性に関する理解促進に寄与した。</li> </ul> <p><b>(2) インクルーシブスポーツの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、スポーツに関心を持つ市民が、誰でも気軽に楽しむことができるよう、関係部署と連携してインクルーシブスポーツの推進等に取り組み、共生社会の実現及び介護予防や健康づくりに繋げていく。</li> <li>・横浜市スポーツ協会や障害者スポーツ文化センター横浜ラポール、令和 2 年 1 月に開所したラポール上大岡等の連携を深め、障害の有無等にかかわらず、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりや担い手の育成が進んだ。</li> </ul> <p><b>(3) 子どもたちの体力向上、スポーツに関わる人材の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、アスリートやスポーツビジネス関係者等の講義等を行い、子どもたちの体力向上及びスポーツ振興に係る人材を育成することができた。</li> </ul> <p><b>(4) スポーツ等を通じた健康づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よこはまウォーキングポイント」等の推進により、健康ライフスタイルを実践するきっかけづくりや継続を後押しした。</li> <li>・「さわやかスポーツ」の普及や総合型地域スポーツクラブの育成・支援により、誰もが気軽に身近な地域でスポーツを楽しめる機会を提供することができた。</li> </ul>	<p>P. 11～ P. 22</p>

<p><b>【柱3】文化芸術の創造性を生かしたまちづくり</b></p> <p>(1) 文化プログラムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜トリエンナーレ」や「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA」、「横浜音祭り」を開催し、横浜の文化芸術の魅力を世界に発信し、文化芸術による新たな価値と活力を作り出すことができた。</li> </ul> <p>(2) 次世代育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新進アーティストへの活動支援助成を通じて国内外で活躍するチャンスを創出し、採択されたアーティストが活躍することにより横浜のプレゼンスの向上につながった。</li> </ul> <p>(3) 障害者の文化芸術活動の環境整備、活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者と多様な分野のプロフェッショナルによる現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2020」を開催し、新たな芸術表現を生み出すパフォーマンス公演等を実施し、障害の有無を問わず、誰もが参加し、楽しめる環境づくりや、障害者の創作活動を支える人材の育成を進めた。</li> </ul> <p>(4) 創造性を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術創造都市プラットフォームとして、アーティスト・クリエイター、企業、NPO、大学等の様々な団体が参加するワークショップ「WE BRAND YOKOHAMA」、やアーティスト・クリエイターと地元企業とつなげる「ハマの大喜利」など、様々なプレイヤーをつなげるプラットフォームが形成された。</li> </ul>	<p>P. 23～ P. 28</p>
<p><b>【柱4】横浜を世界に魅せる</b></p> <p>(1) 快適な滞在環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を契機に、広告付案内サインと公衆無線 LAN を都心臨海部及び新横浜駅周辺に整備・供用し、来街者の滞在環境の向上を図った。</li> </ul> <p>(2) 国内外からの集客の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーワールドカップ 2019™では、街の清掃、緑化による賑わい創出のほか、シャトルバスによる送客や観光プロモーション等の実施により、外国人観戦客の市内回遊が促進され、市内主要ホテルにおける外国人比率が過去最高水準となるなど、市内経済活性化に寄与した。</li> </ul> <p>(3) スマートシティの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両大会を通じて、横浜市風力発電所ハマウイングで創出された再生可能エネルギーを活用することができ、「環境先進都市 横浜」のPRにつながった。</li> <li>・様々なステークホルダーと連携し、市民・事業者の環境に配慮したライフスタイルを推進するとともに、市民の環境に対する意識を高めた。</li> </ul>	<p>P. 29～ P. 41</p>

ラグビーワールドカップ 2019™  
東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた

# 横浜市の取組

## 令和3年度 取組状況

### 総評

令和4年2月

横浜市

## < 目 次 >

- 1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について P 1
  
- 2 取組状況、総評について
  - 「柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし」の取組 P 2  
【3分野、10項目（①、②…）、22取組（ア、イ…）】
  
  - 「柱2 スポーツを通じて横浜を元気に」の取組 P 11  
【4分野、9項目（①、②…）、28取組（ア、イ…）】
  
  - 「柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」の取組 P 23  
【4分野、9項目（①、②…）、12取組（ア、イ…）】
  
  - 「柱4 横浜を世界に魅せる」の取組 P 29  
【4分野、10項目（①、②…）、27取組（ア、イ…）】

# 1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について

平成 28 年 11 月 17 日に官民連携組織「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会」を立ち上げ、「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～」を策定しました。

そこに掲げられている「取組の 4 つの柱」に基づいて、横浜市が行う両大会に向けた取組や、取組から生まれるレガシーを、ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」としてまとめました。

横浜市では、両大会の開催を契機に、スポーツ振興はもとより、文化芸術の振興、経済、教育分野、シティプロモーションなど幅広い取組により、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となるような有形無形のレガシーを遺していきます。

《取組の 4 つの柱（「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」より）》

- (1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし
- (2) スポーツを通じて横浜を元気に
- (3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり
- (4) 横浜を世界に魅せる

※「横浜市の取組」に掲載している取組の事業費については、毎年度の予算編成の中で決定します。

※「横浜市の取組」の取組期間は大会終了年度までとなっており、両大会後も継続して取り組む予定のものについても計画期間に合わせて目標時期を記載しています。

※「横浜市の取組」に掲載している取組は、新型コロナウイルス感染症の情勢を踏まえて展開していきます。

## 2 取組

### 柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

#### <考え方>

ラグビーワールドカップ 2019™は決勝戦開催都市として、東京 2020 オリンピック・パラリンピックは競技開催都市として、関係機関と連携して円滑な大会運営に取り組むとともに、国内外から訪れる皆様を全力でおもてなしします。

ソフト・ハード両面でのバリアフリーを推進するとともに、開催都市プロモーション・広報やイベントなどによる機運の醸成や、トレーニングキャンプの受入れ等を通じた国際交流などで両大会を大いに盛り上げ、ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対して最大限の貢献をしていきます。

- 1 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します。
- 2 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます。
- 3 トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組めます。



#### 《取組から生まれるレガシー》

- a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
- b ソフト・ハード両面でのバリアフリーの推進
- c ボランティア文化の醸成・定着
- d トレーニングキャンプ実施国・チームと地域とのつながり
- e 多文化共生を尊重する意識や国際感覚の醸成



# 横浜市の取組(令和3年度の取組および取組の総評)

## 柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(1/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p><b>① 競技会場における各種計画(警備、安全確保、救急医療体制など)の策定・実施</b></p> <p><b>ア 危機管理・安全対策</b> 組織委員会や警察等関係機関と連携を図りながら、選手、大会関係者、観戦客等の安全対策に取り組みます。大会開催期間中の有事に備え各種訓練を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場周辺の安全対策の推進</li> <li>組織委員会等と連携した各種計画の策定、大規模災害発生時を想定した事前対策の推進</li> <li>関連施設等の防火・安全対策</li> <li>各種災害対応訓練の実施(図上訓練、テロ災害対応訓練、警察など関係機関と連携した合同訓練など)</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局、総務局、消防局、道路局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理プロジェクトを開催:計3回(4月、7月、11月)</li> <li>情報伝達訓練を実施:1回(7月)</li> <li>大会に関連する危機事案の未然防止及び参加選手、大会関係者及び会場周辺住民等の安全を確保するため、危機管理体制を確立</li> <li>※警察等と連携した実動訓練を実施予定であったが、災害(大雨・熱海市への応援派遣等)対応により中止</li> <li>「東京2020大会横浜市危機管理計画」の策定</li> <li>NBC災害隊対応関連資機材等の整備</li> <li>多数傷病者対応関連資機材の整備</li> <li>整備した資機材等を活用し、東京2020大会競技大会消防特別警戒を実施</li> <li>現地情報収集機能等を充実・強化するため、携帯電話や映像情報共有端末等を整備</li> <li>東京2020大会組織委員会と大会専用救急車の運用について協議</li> <li>大会専用救急自動車の維持管理・整備</li> </ul>	<p>両大会を通じて、神奈川県警や大会組織委員会等の関係機関と連携し、大会運営本部や警戒本部を設置し、危機管理体制を確立して安全安心な大会運営を行うことができた。</p> <p>また、庁内の危機管理プロジェクトの開催等を通じて、大会に向けた各種訓練の実施、危機事案発生時の危機管理体制の構築、競技場周辺の安全対策など、大会運営ノウハウとホスピタリティを持つまちの実現に寄与した。</p> <p>今後は、横浜の大会開催能力をPRして大規模大会の誘致に繋げ、両大会で培ったノウハウを大会運営で活用していく。特に、開催にあたっては主催者と綿密な調整を行い、強固な連携体制を確立していくとともに、テロ災害や多数傷病者発生事案に対応していく必要がある。</p> <p>暑さ対策については、庁内で効果的な取組を整理するとともに、民間企業との協力体制を構築した。無観客開催により、暑さ対策の効果検証はできなかったが、今後の夏季イベント開催時の基礎資料として活かしていく。</p>
<p><b>イ 交通・輸送対策</b> 組織委員会と連携し、選手、大会関係者、観戦客等の円滑な輸送を図るとともに、鉄道等公共交通機関における混雑緩和対策に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警察、輸送事業者及び道路管理者等と連携した交通輸送体制の確立(公共交通機関の増発、終電延長他)</li> <li>本市の広報媒体等を活用した事前広報</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局、交通局</p>	<p>〈横浜国際総合競技場〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜国際総合競技場周辺の一般道路について、無観客になったことをうけ、交通規制は中止</li> <li>交通抑制を図るため、公共工事等を抑制を依頼</li> </ul> <p>〈横浜スタジアム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜スタジアム周辺の一般道路について、無観客となったが選手・大会関係者の輸送確保のため、最低限の交通規制を実施</li> <li>上記規制に伴い市営バスの迂回運行を実施</li> <li>交通抑制を図るため、公共工事等の抑制を依頼</li> </ul> <p>(両会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無観客開催決定により、深夜輸送及び臨時列車運行を見送り</li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019™では、交通機関との連携体制の構築やボランティアによる案内誘導、早期来場の呼び掛け、交通総量の抑制の広報などを行い、安全、円滑に大会を開催することができた。</p> <p>また、東京2020大会では、横浜スタジアム周辺で約1月間、市営バスの迂回を行ったが、交通局による早期誘導・乗客への案内により大きな混乱もなく実施することができた。</p> <p>両大会を通じて、庁内の交通輸送検討部会等により庁内及び交通機関との連携体制を構築したことで、駅構内放送での周知や各所へのポスター掲示などの広報が可能となり、安全安心な大会開催に繋げることができた。今後、これらのノウハウを大規模イベント等の運営に繋げていく。</p>
<p><b>ウ 救急医療体制の構築</b> 大会開催期間中の救急医療体制を構築します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大会開催期間中の救急医療体制の確立</li> <li>テロ等大規模災害発生による多数負傷者発生時の搬送体制の確立</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局、消防局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無観客での開催をうけ、観客用医務室や従事する医師・看護師を調整</li> <li>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、大会指定病院をフォローする後方支援病院を追加して負荷を分散</li> <li>東京2020大会組織委員会と大会専用救急車の運用について協議</li> <li>大会専用救急自動車の維持管理整備</li> <li>NBC災害隊対応関連資機材等の整備</li> <li>多数傷病者対応関連資機材の整備</li> <li>整備した資機材等を活用し、東京2020大会競技大会消防特別警戒を実施</li> <li>現地情報収集機能等を充実・強化するため、携帯電話や映像情報共有端末等を整備</li> </ul>	<p>両大会において、医療救護本部を設置し、迅速な情報収集と初動対応を行い、大会警戒本部や医療機関等と連携しながら統括的な指揮をとった。</p> <p>緊急事態宣言下で市内の医療救護体制を維持しながら大会を運営するため、大会関係者の診療について、市内医療機関や神奈川県、大会組織委員会と連携し、受入れを行う医療機関の役割を、対象者や程度等に応じて整理するなど、オール横浜で対応にあたった。</p> <p>また、両大会を契機に整備した災害対応関連機材を活用し、消防特別警戒を実施するとともに、東京2020大会では大会関係者向けのトリアージ手段として、既存サービスの#7119の効率的な活用ができた。</p> <p>これらのノウハウを今後の大規模イベント運営に活かしていく。</p>

## 柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野: 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(2/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>エ 外国人診療の支援</b>            滞在中の外国人が安心して医療を受けられるような体制を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JMIP（※）認証取得に向けた病院支援</li> <li>※JMIP：医療機関における多言語対応や異文化・宗教への配慮等の体制を評価する制度のこと。</li> <li>・希望する市内の病院・夜間急病センター等に向けた電話医療通訳サービスの提供</li> <li>・外国語対応可能な医療機関の調査・情報提供</li> <li>・医療機関向け外国人患者対応セミナーの実施</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 医療局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する市内医療機関等に、電話医療通訳サービスを提供（24時間16言語対応）し、市ホームページ上で公表</li> <li>・外国人患者受入れ支援セミナーの開催</li> </ul>	<p>市内で4医療機関がJMIP認証を取得し、外国人患者が安心して医療機関を受診できる環境の整備につながった。</p> <p>また、両大会を契機に、市内医療機関等に電話医療通訳サービスの提供を開始し、市ホームページ上で公表したことにより、登録医療機関および利用件数の増加に繋がっている。</p> <p>今後、サービスの更なる普及に向けて、引き続き医療機関の登録勧奨や利用促進を図っていく必要がある。</p>
<p>② 競技会場における必要な整備やアクセスルートなども含めたバリアフリーや屋外広告物への対応</p> <p><b>ア 会場整備</b>            会場施設等の必要な改修を行うとともに、障害者や高齢者をはじめ、誰もが円滑に移動でき、安全に観戦できるよう、バリアフリー対応の充実に取り組みます。</p> <p>&lt;横浜国際総合競技場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>決勝戦の開催に向けた照明設備を更新し、競技場の魅力づくりを図ります。</li> <li>・国際大会の開催時に安全や機能を確保するため、競技用の場内放送設備等の保全工事やトイレの増設、洋式化やテレビ放送関連設備の更新などを実施します。</li> </ul> <p>&lt;横浜スタジアム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野球・ソフトボールの開催に向けて、大会組織委員会等と調整を行います。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 環境創造局、市民局、道路局</p>	<p>&lt;両会場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場整備及び撤去を実施</li> </ul> <p>&lt;横浜国際総合競技場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気設備の改修</li> <li>・記念展示施設の整備</li> </ul> <p>&lt;横浜スタジアム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会期間中は準備期間も含めて会場周辺への立入りができなくなることから、会場周辺の路上生活者の方々に、事前の声掛けや簡易宿泊所の提供を実施</li> </ul>	<p>東京2020大会の競技会場となった「横浜スタジアム」では、両翼スタンドを拡充し約6,000席を増席したほか、エレベーターやスロープも合わせて新設し、バリアフリーに配慮した球場となった。</p> <p>また、両大会の競技会場となった「横浜国際総合競技場」では、照明設備や観客席等の更新、トイレの洋式化や多目的トイレの整備等を行ったことにより、国際的大会の開催により相応しい仕様のスタジアムとなった。</p> <p>さらに、2002FIFAワールドカップ<sup>TM</sup>、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の決勝に続き、東京2020大会のサッカー競技決勝が行われ、世界三大スポーツイベントの決勝が開催された、世界で唯一の会場となった。</p> <p>両競技場の一層の魅力向上を図り、今後の大規模イベント誘致における競争力の強化に繋げていく。</p>
<p><b>イ 屋外広告物への対応</b>            両大会スポンサーのマーケティング活動を妨害しないよう、アクセスルート上の屋外広告物について組織委員会と連携して対応します。</p> <p>また、景観維持と安全対策のため、期間前と期間中に会場周辺や市内主要駅周辺での路上違反広告物の除却を強化します。</p> <p>【目標時期】 R元</p> <p>【所管局】 都市整備局、市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路上違反広告物の除却等の実施：平日毎日場所を変えて実施</li> <li>・新横浜駅周辺の繁華街での夜間合同啓発指導への参加：1回</li> </ul>	<p>両大会を通じて、路上違反広告物の除却等の取組により、路上の広告物が減少しており、世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現につながった。</p> <p>特に、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>においては、アクセスルート上の屋外広告物等について、組織委員会や警察と連携して、アンブッシュマーケティングの巡視活動を行い、安全、円滑な大会を開催することができた。</p> <p>今後も、良好な景観の形成、風致の維持、公衆に対する危害の防止を推進するため、引き続き、路上違反広告物の除却に取り組んでいく必要がある。</p>

## 柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野: 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(3/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>③ 組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用  <u>ア 大会運営ボランティアの育成・活用</u>            組織委員会と連携し、大会運営を担うボランティアの育成に取り組みます。</p> <p>【目標時期】            H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割別研修（動画研修）の実施</li> <li>・リーダーシップ研修（動画研修及びオンライン交流会）の実施</li> <li>・ユニフォーム配付（配送）</li> <li>・活動場所別研修の実施</li> <li>・感染症対策予防接種（風しん・麻しん、新型コロナウイルス）の実施</li> <li>・感謝会の実施</li> <li>・記録集の作成・発送</li> </ul>	<p>多くの市民の皆様の御協力を得ながら、関係機関等と連携して安全安心に大会を開催することができた。</p> <p>両大会のボランティアの方々には、横浜市スポーツボランティアセンター等へ登録いただき、両大会後の活動機会を提供することができた。両大会を契機として、ボランティア活動を継続していただき、ボランティア文化の醸成一層推進していく。</p>

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(1/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施</p> <p><b>ア 既存広報誌、市ホームページを活用した広報</b>            広報計画を策定し、「広報よこはま」等の既存広報ツールや地下鉄駅を活用した効果的な大会のPRを行います。            競技開催予定都市である横浜を紹介するPR動画を作成し、イベント等で放映することにより機運の醸成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報計画の策定</li> <li>・「広報よこはま」の活用</li> <li>・PR動画の作成・活用</li> <li>・地下鉄駅を活用したPRの実施 他</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報よこはまへの情報掲載：1回（特集）</li> <li>・市民局ウェブサイトでの情報発信</li> <li>・特設ウェブサイトでの情報発信</li> <li>・YouTubeチャンネルの新設・SNS（Twitter, Instagram）での情報発信</li> </ul>	<p>両大会を通じて、広報よこはま、特設ウェブサイト、SNSを活用し、随時、積極的な情報発信ができた。</p> <p>東京2020大会では、新型コロナウイルス感染症の拡大後、状況を見極めながら情勢に合わせた広報となるように努め、情報を発信した。</p> <p>また、大会期間中には、YoutubeやSNSを活用することで、人流を抑制しながら取組を紹介することができた。</p> <p>大会に向けて作成したSNSアカウントでは、大会後も引き続き情報発信を行い、横浜市のスポーツ振興に活用していく。</p>
<p><b>イ 情報発信拠点の設置</b>            市内の主要駅にPRスペース等を設置し、両大会の認知度の向上や、大会関連イベントの広報に取り組みます。</p> <p>【目標時期】 H30～R3</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情勢の変化が大きいため、即時性のある特設ウェブサイトやSNS（Twitter, Instagram）を主とした情報発信に切り替えつつ、観光案内所等での横浜版ガイドブックの配布等PRを実施</li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019™に向けて、様々な事業者と連携し、スタンプリリーの実施や等身パネルの設置など、幅広く広報活動を行い、多くの市民に訴求することができた。</p> <p>また、東京2020大会に向けて、節目イベント開催の機会等を捉え、主要駅でのホームドア広告や、大会期間中における観光案内所と連携した横浜版ガイドブックの配布など、拠点を意識した広報を展開することができた。</p> <p>これらのノウハウを、今後の大規模イベント等の開催時に活用していく。</p>
<p><b>ウ 盛り上げイベント等の実施</b>            節目ごとのイベントの開催や、各区における盛り上げイベント等の実施により、両大会に向けた機運醸成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の乗車券を活用した周遊促進</li> <li>・節目ごとのカウントダウンイベントの開催</li> <li>・カウントダウンボードの設置</li> <li>・各区における機運醸成イベントの実施</li> <li>・市民参加型レガシープロジェクトの実施</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局、交通局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインを活用しながら機運醸成を継続。大会後にはレガシーイベントを開催</li> <li>・100日前キャンペーン：4/14～5/16</li> <li>・神奈川県・横浜市ゆかり選手壮行会：6/19</li> <li>・神奈川・横浜アスリート感謝会：9/26</li> <li>・全18区への予算配付（1区あたり約500千円）</li> <li>・大会と同時期に『みなとぶらりシーバスチケット』の販売を開始し、観光客の回遊性を高める取り組みを実施</li> <li>・同チケットを市内ホテルに販売し、宿泊プランに組み入れてもらうという市内企業とのタイアップを実施</li> </ul>	<p>両大会を通じて、大会パートナー企業や関係団体と連携し、節目イベントを開催することで、市民の皆様と共に大会に向けた機運醸成を行った。</p> <p>東京2020大会においては、観光客の回遊性・利便性を高める取り組みを行うとともに、企画乗車券の特典提携先の新規開拓、ホテルの宿泊プランへの組み入れなど、市内経済活性化に貢献した。</p> <p>また、令和2・3年度の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、YouTubeチャンネル等の活用や、展示を中心とした内容で、人流抑制対策をしながら機運醸成の取組を継続した。</p>
<p><b>エ 既存イベントと連携した機運醸成</b>            区民まつりや消防出初式等各種既存イベントと連携したPR活動や、パビリニック競技体験等を実施します。</p> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から既存の大規模イベントが中止となったことに伴い、ブース出展や競技体験会等の実施を見送り</li> </ul>	<p>両大会を通じて、既存イベントと連携した広報PRや機運醸成を行うことで、積極的に大会のPRを行うことができた。特に、トライアスロン世界シリーズや横浜マラソン等の大規模イベントにおいてアスリートによるトークショーを行うなど、スポーツの関心のある層に対して重点的にPRを行うことができた。</p> <p>令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、既存イベントの中止が相次いだ。再開された際に再びスポーツ振興に通じる取組ができるよう、ノウハウを継承していく。</p>

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(2/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>オ テストイベントと連携した機運醸成</b>                      テストイベントにおけるPR活動の実施により、大会本番に向けた盛り上げを高めます。</p> <p>【目標時期】 H29～H30</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<p>(H30年度で終了)</p>	<p>ラグビーワールドカップ2019™では、本大会を前にしたテストマッチ開催の機会を活用し、本番をイメージしたイベントのトライアル及び本大会に向けて機運を醸成することができた。</p>
<p><b>カ 街の装飾</b>                      バナー等の装飾によるPR活動を行います。                      ・競技会場や競技会場周辺及び市内主要駅等へのバナーなどの装飾によるPR活動                      ・地元商店街と連携したPR活動                      ・まちなみラッピングの検討・調整</p> <p>【目標時期】 R元～R3</p> <p>【所管局】 市民局、経済局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤レンガパークに大型オリンピックシンボルの設置</li> <li>・みなとみらいコスモクロックへの動くビクトグラムのライトアップ</li> <li>・横浜駅にポスター掲示</li> <li>・桜木町駅前広場、汽車道、万国橋付近にオリジナルバナーフラッグ掲示、クロスゲートに懸垂幕掲示</li> <li>・日本大通り、メディアセンター付近に東京2020バナーフラッグ掲示</li> <li>・作成したフラッグをリサイクルし、資源循環局、教育委員会、温暖化対策統括本部とともに、福祉や教育等の分野で活用予定</li> <li>・横浜スタジアム・横浜国際総合競技場に銘板・スタンプ設置予定</li> <li>・東京2020大会に係る市民局作成の大会啓発ポスターを市内商店街に配付、掲出依頼</li> </ul> <p>配付先商店街数：242                      配付数：A4サイズ8,556枚、B2サイズ1,530枚                      ・東京五輪音頭2020のDVDの各区商店街連合会への配付                      配付先：18区商店街連合会</p>	<p>ラグビーワールドカップ2019™では、本大会を前に、カウントダウン、テストマッチの機会を捉えてシティドレッシングを実施したことで、本番をイメージしたイベントのトライアルができ、また、本大会に向けた機運醸成を実施することができた。</p> <p>東京2020大会では、無観客開催やライブサイトの中止に伴い、装飾場所や期間は縮小したものの、赤レンガパークに設置した大型モニュメントやコスモクロック21での動くビクトグラムの投影（SNSで10万回以上再生）など、大きな反響があり、大会の機運醸成に寄与し、競技開催都市・横浜を世界に発信することができた。</p> <p>今後、関係部局とともに、装飾用に使用したフラッグ等を廃棄せずにリサイクルする、横浜型フラッグリサイクルの仕組みを継承していく。</p> <p>また、野球・ソフトボール競技、サッカー競技の横浜開催、特に決勝戦の開催を記念し、横浜スタジアム及び横浜国際総合競技場に大会後の視覚的なレガシーとして銘板を設置する。</p>
<p><b>キ 市民参加による聖火リレー</b>                      東京2020大会に関連して実施される聖火リレーについて、多くの市民が大会に関わる機会を増やすため、リレールートの誘致に取り組みます。</p> <p>【目標時期】 R3</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京2020大会競技大会組織委員会」や「神奈川県実行委員会」における検討状況を随時把握するとともに、本市における聖火リレーの実施に向け、調整を実施</li> <li>・公道走行中止という県の方針を受けて市内でのリレー走行は行わないこととなったが、赤レンガ倉庫にて、聖火ランナーによる点火セレモニー及び、最終ランナー到着式「セレブレーション」を実施</li> </ul>	<p>東京2020大会のオリンピック聖火リレーでは、公道走行が中止になったものの、リレー実施に向けた調整にあたり、地域の団体・企業と、今後のイベント等に活きる協力関係を構築することができた。</p> <p>横浜では、点火セレモニー及びセレブレーションが実施され、市民を始めとする多くの方に横浜の魅力を発信することで、横浜のシティプレゼンスの向上に寄与した。</p> <p>また、横浜国際総合競技場において、トーチ、ユニフォームおよび当日の写真等を展示し、本市に聖火を迎え入れた記録を残し、今後のスポーツ振興につなげていく。</p>
<p><b>ク パブリックビューイングの実施</b>                      競技会場で観戦できない方々のためにパブリックビューイングを開催し、多くの市民が感動を共有できる環境を整えます。</p> <p>【目標時期】 H29～R元</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<p>(R元年度で終了)</p>	<p>ラグビーワールドカップ2019™では、本大会を前に、テストマッチの機会を捉えてパブリックビューイングを実施したことにより、本番をイメージしたイベントのトライアルを通じて本大会に向けて機運を醸成することができた。</p> <p>今後も、パブリックビューイングの運営ノウハウを大規模大会の誘致に繋げていく。</p>

## 柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

### 分野:両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(3/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>メダル制作に向けた小型家電等の回収</b> 市民のみなさまがお持ちの使用済み小型家電等には、メダルの制作に必要な金属が含まれています。組織委員会と連携し、東京2020大会で使用メダル制作に向け、小型家電等の回収を進めます。</p> <p>【目標時期】 H29～H30</p> <p>【所管局】 資源循環局</p>	(H30年度で終了)	東京2020大会を契機に、小型家電のリサイクルの定着を推進したことにより、循環型社会の形成に寄与した。今後も、様々な媒体を活用した広報等を行い、さらなる小型家電リサイクルの推進につなげる。
<p>② 来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組</p> <p><b>ア 都市ボランティアの育成・活用</b> 組織委員会等と連携しながら、都市ボランティアの育成や活用に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容、活動場所、規模の検討</li> <li>・申込方法、時期、研修体制、ユニフォーム、マニュアル等の検討</li> <li>・在住外国人の語学力等を活かし、「おもてなし」ボランティアの担い手として活躍していただくための講座を実施</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局、国際局</p>	<p>都市ボランティア（約2,000名）の方を対象に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割別研修（動画研修）の実施</li> <li>・リーダーシップ研修（動画研修及びオンライン交流会）の実施</li> <li>・ユニフォーム配付（配送）</li> <li>・活動場所別研修の実施</li> <li>・感染症対策予防接種（風しん・麻しん、新型コロナウイルス）の実施</li> <li>・感謝会の実施</li> <li>・記録集の発送</li> </ul>	<p>両大会を契機に、横浜市スポーツボランティアセンターに登録いただいた方が、約13,000名となり、今後、育成や活動の場の確保を進めていく。東京2020大会では、ボランティア文化の醸成をすとも、都市ボランティアに登録いただいた約2,000名の方に大会後も活動を継続していただけるよう、横浜市スポーツボランティアセンターと連携してボランティア活動継続に係る情報発信や活動機会の創出を行った。また、観光地やスポーツ大会での実地研修等により、在住外国人向けの講座を実施し、語学力や文化的背景等を活かして行う「おもてなし」について学ぶ機会を創出した。</p> <p>都市ボランティアの方々の活動は、無観客開催等に伴い、大会期間中の活動は中止としたが、10月に感謝会を開催するとともに、様々な分野でのボランティア活動を紹介するなど、今後のボランティア活動につなげる取組を実施した。</p> <p>今後も、東京2020大会を契機に新たにボランティアに興味を持った方も含めて、ボランティア情報の発信を継続していく。</p>
<p>③ ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>ファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし</p> <p><b>ア ファンゾーンの設置</b> ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の開催に伴い、公共のエリアでパブリックビューイングなどラグビーファン向けにラグビーワールドカップに関係する体験を提供する「ファンゾーン」を設置します。</p> <p>【目標時期】 R元</p> <p>【所管局】 市民局</p>	(R元年で終了)	ラグビーワールドカップ2019 <sup>TM</sup> において、事前のテストマッチ及び本番で「ファンゾーン」を実施したことにより、大きな盛り上がりを作ることができた。こうした観戦スタイルや運営ノウハウを今後の大規模大会誘致に繋げていく。
<p>④ 東京2020ライブサイトの設置による来訪者へのおもてなし</p> <p><b>ア 東京2020ライブサイトの設置</b> 東京2020オリンピック・パラリンピックの期間中、競技会場以外で、大型スクリーンを使用した競技中継（パブリックビューイング）を中心に、ステージイベント、競技体験、パートナー企業のブース出展、飲食や大会グッズの販売等が行われるライブサイトを設置します。</p> <p>【目標時期】 R元～R3</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月11日に新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、ライブサイト、パブリックビューイングの中止を決定</li> </ul>	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、ライブサイト、パブリックビューイングは中止となったが、コロナ対策を講じた上での実施に向けた検討材料として、今後の大規模イベント開催時に活かしていく。

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野: トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます(1/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p>① トレーニングキャンプの受入に向けた調整</p> <p><b>ア 事前キャンプの受入</b>            関係団体と連携し、東京2020大会に出場する英国代表チームの事前キャンプを受入れます。併せて、国際都市としての更なる発展に向けて新たな受入れについて検討します。            ・施設利用契約の締結            ・大会開催時の事前キャンプの受入</p> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英国、チュニジア共和国、ボツワナ共和国と、スポーツ庁事業への参加9か国、計12か国総勢約800人の代表選手団の事前キャンプを受入れ</li> <li>・横浜国際プール、慶應義塾大学、日本体育大学、武相中学・高等学校などでの練習のサポートを実施</li> <li>・練習、宿泊、移動など各場面に応じた感染症対策を実施するとともに、選手団は毎日、日本側受入れスタッフは接触の度合に応じて定期的にスクリーニング検査を実施</li> <li>・英国事前キャンプボランティア(主な活動は移動、動線分離や選手等の献送迎サポート)を運営するとともに、活動終了後に感謝会を実施</li> </ul>	<p>東京2020大会において、計12か国、約800名に及ぶ事前キャンプ受入れにあたって、2016年に英国と事前キャンプの覚書を締結して以来、準備・調整を重ね、信頼関係を構築した。</p> <p>また、事前キャンプ受入れ時に感染症対策に万全を期した結果、選手団・スタッフから一人の陽性者も出ずことなく無事に終えることができ、関係機関から高い評価を得るとともに、選手の大会でのパフォーマンス発揮に寄与することができた。</p> <p>今後は、コロナ対策を含めた事前キャンプ運営ノウハウや各国・関係者との関係性を継承していくとともに、英国事前キャンプボランティアの皆様が横浜スポーツボランティアセンターで活動を継続していただけるよう情報発信等を行っていく。</p>
<p>② ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進</p> <p><b>ア ホストタウンの取組</b>            ・英国のホストタウンとしての取組を通じ、英国関係者等と市民の皆様の交流機会を創出します。            ・新たな事前キャンプの受入れに伴うホストタウン登録について検討します。            ○英国関係者と連携した交流            ○大会等に参加するために来日する英国代表選手との交流</p> <p>・イスラエル国、チュニジア共和国、ベナン共和国、ボツワナ共和国、コートジボワール共和国、ブルガリア共和国、モロッコ王国、アルジェリア民主人民共和国のホストタウンとしての取組を通じ、各国関係者等と市民の皆様の交流機会を創出します。            ○大会等に参加するために来日する各国選手等との交流            ○各国関係者との交流</p> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 市民局、国際局</p>	<p>ホストタウン登録国のうち、事前キャンプ実施国はキャンプの機会を捉えて交流を実施</p> <p>○英国            ・都筑区内児童による応援メッセージ入り旗の作成・国際プール内への掲出、選手への贈呈            ・英国選手と都筑区内児童のオンライン交流            ・児童やボランティアによる選手村へのお見送り            ・子ども記者による英国キャンプディレクターへのオンライン取材            ・川崎市、慶應義塾大学との英国事前キャンプ合同ウェブサイト上で情報発信を実施            ・これまでの記録集を作成</p> <p>○ボツワナ            ・市内保育園児、小学校児童による応援メッセージボード作成・宿泊施設への掲出            ・小学校児童による選手への応援メッセージ動画作成・放映            ・選手団、臨時代理大使と小学校とのオンライン交流            ・臨時代理大使が議長、副議長、市長と面会</p> <p>○チュニジア            ・市内保育園児、小学校児童による応援メッセージボード作成・宿泊施設への掲出            ・小学校児童による選手への応援メッセージ動画作成・放映            ・選手団、大使と小学校のオンライン交流            ・チュニジア官房長官とのオンラインミーティング            ・駐日大使、チュニジア五輪委員会会長等が議長、副議長、副市長と面会            その他、事前キャンプの記録や記念品を関係区局などで展示(市庁舎アトリウム、都筑区役所、横浜国際プール)            ○上記以外のホストタウン登録国との交流            5～9月 市内企業等でホストタウン関連事業を実施            ○英国、ブルガリア、コートジボワール、モロッコ            6～7月 中学校給食でホストタウン相手国応援メニューを提供            ○イスラエル、アフリカ6か国            7～9月 ホストタウン相手国料理レシピをHP掲載            ○ブルガリア            R4年2月 小学校で文化理解授業実施            ○アフリカ6か国            8～9月 駐日大使からのメッセージ動画            7～9月 市内小中学校からの各国選手団への応援メッセージ動画作成・放映            ○ベナン            7月 中学校で国際協力出前講座実施(JICA主催)            ○コートジボワール            6月 中学校で駐日大使と給食交流            ○モロッコ            6～7月 中学校でモロッコ出身者のオンライン講義            ○アルジェリア            11月 小学校で青年海外協力隊経験者の講義</p>	<p>東京2020大会において、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、市内小学校児童等と選手とのオンライン交流会や、メッセージ動画及び応援旗の贈呈、市内企業等と連携した交流事業など、コロナ禍でも交流事業を実施し、離れた場所を繋いだ交流を深めていくことが可能となった。</p> <p>今後は、事前キャンプやホストタウン交流で築いた各国との関係を継承していくため、トライアスロン大会等の機会を捉え、交流を引き続き実施していく。</p>

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます(2/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p>③ 文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成</p> <p><b>ア グローバル人材の育成等</b></p> <p>グローバル人材の育成に向けた学校教育における取組や、多文化共生活動への支援を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年生からの外国人講師による国際理解教室の実施や国際交流の推進</li> <li>・小中学校等への英語指導助手(AET)配置等による英語教育の推進</li> <li>・各校に在籍する外国籍等児童生徒との交流を通じた異文化理解・多文化共生意識の醸成</li> <li>・グローバル人材の育成に向けた、授業等における外国人との異文化交流の実施</li> <li>・来訪外国人のおもてなしや異文化理解の促進などに取り組む市民団体やNPOの取組への支援の実施</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3(R4以降も継続予定)</p> <p>【所管局】 教育委員会、国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教室を実施する外国人講師を小学校全校及び講師の派遣を希望している特別支援学校10校に配置：350校</li> <li>・中学校で国際理解教室外国人講師を活用して、中学生の発達段階や既習事項を踏まえた、より実践的な英語を使ったプログラムであるSEPro Globalを実施：18校程度</li> <li>・外国人英語指導助手(AET)を市立全小中学校へ配置し、小学校では「英語村」、中学校では「SEPRO(スーパーイングリッシュプログラム)」等を実施し、児童生徒が生きた英語にふれる機会を提供</li> <li>・外国籍及び外国につながる児童生徒(11,252人)を対象に、小・中・義務教育学校で日本語指導等を実施</li> <li>・国際教室担当教員配置校：186校</li> <li>・英語教育：英語指導助手の全校配置、英検の活用</li> <li>・国際交流プログラム：プログラム実施全校でオンラインにより実施</li> <li>・海外大学進学支援事業：全学年で実施</li> <li>・横浜版スーパーグローバルハイスクール(SGH)の推進：2校</li> <li>・市民団体等の「来訪外国人のおもてなし促進」、「異文化理解の促進」、「在住外国人の活躍推進」に関する活動へ支援を実施：7件</li> </ul>	<p>外国人講師の派遣により、英語を通して異なる文化を体験的に学ぶことで、児童・生徒の国際性の育成を図り、国際理解教育を積極的に推進することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施が難しい事業もあったが、ICTの活用など、実施方法を工夫し取り組むことで、多文化共生を尊重する意識や国際感覚の醸成に一定の効果があった。</p> <p>特に、国際交流プログラムは、姉妹校交流を通じて互いの文化や歴史等を学び、理解を深めていくことで豊かな国際感覚の醸成に大きく寄与した。</p> <p>今後も引き続き、ICTを積極的に活用していく等、持続可能な形で取組を進展させていく必要がある。</p> <p>また、英語教育で目指す姿「英語を活用しながら、あらゆる人々の多様性を尊重し、協働、共生できる人」を実現するため、英語教育が担う役割を意識しながら引き続き、授業改善を進めていくとともに、AETの全校配置等を通じて学んだ国際的な感覚を実社会で体験する機会を提供していく。</p> <p>さらに、来訪外国人のおもてなしや異文化理解の促進、在住外国人の活躍促進に関する団体活動への支援が、多文化共生社会実現に向けた活動の広がりや市民の意識醸成につながったことから、引き続き市民団体の支援に取り組んでいく。</p> <p>区役所窓口等へのICT通訳・翻訳機器の配備や、国際交流ラウンジへのフリーWi-Fiの設置等を通じて、コロナ禍でも外国人が安全・安心に相談対応・情報提供が受けられるよう環境整備を行った。</p> <p>多文化共生市民活動支援補助金の交付や国際交流ラウンジへの地域活動コーディネーターの配置(4区)などにより、地域における多文化共生や国際交流の活動の育成・支援に取り組んだ。</p>



## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

### <考え方>

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、地域スポーツや障害者スポーツをはじめ、さらなるスポーツ振興に取り組み、障害の有無や世代に関わらず子どもから高齢者まで全ての市民がスポーツや運動に親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる、元気な横浜の実現を目指します。

- 1 ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます。
- 2 障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます。
- 3 子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます。
- 4 本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます。



### 《取組から生まれるレガシー》

- a スポーツ実施状況の向上
- b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進
- c 子どもたちの体力向上
- d 市民の健康増進

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(1/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① <u>オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上</u>  <u>ア オリンピック・パラリンピック出場経験者の派遣</u>                      東京2020大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピック出場経験者を招へいしたイベントを開催するなど、市内のスポーツ振興と大会に向けた機運の醸成を図ります。</p> <p>【目標時期】                      ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】                      市民局</p>	<p>（上半期実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問：小学校15校、中学校3校</li> <li>・来訪したオリンピック・パラリンピアン：13人</li> <li>・オリンピック・パラリンピアンと触れ合った児童・生徒の数：2,882人</li> </ul>	<p>平成26年から事業を開始し、延べ10万人以上の児童・生徒がオリンピック・パラリンピアンと交流し、大会の機運醸成のほか、運動意欲の向上やスポーツ振興に繋がった。                      今後も市立小・中・特別支援学校の全校実施に向けて事業を進めていく。</p>
<p><u>イ 小中学生とオリンピック・パラリンピック出場経験者等との交流</u>                      市主催の体育行事などにオリンピック・パラリンピック出場経験者等トップアスリートを招へいし、演技の実演や講演を実施すること及びオリンピック・パラリンピック教育推進校での取組を通して、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p> <p>【目標時期】                      ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】                      教育委員会、市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020大会教育推進校を設置：30校（小27、中1、高1、特1）</li> <li>・市教委主催の体育行事にオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、小学生との交流を実施</li> <li>・東京2020大会教育推進校向けに、パラスポーツ体験・パラアスリート講演会等のパラリンピック競技啓発事業を実施：5件</li> </ul>	<p>東京2020大会を契機に、市立学校において各校の特色や実態に応じた教育テーマを設定し、教育活動に東京2020大会の要素を新たに取り入れるなど、年間を通して学校の実情に合わせたオリパラ教育に取り組むことができた。</p> <p>また、例年実施している集合での成果報告会が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったが、東京2020大会教育推進校の実践事例をeラーニングにより全校に向けて発信することで、他校における大会レガシーの創出を図った。</p> <p>さらに、パラスポーツ体験、パラアスリート講演会等を通して、子どもの障害の特性に関する理解促進や障害スポーツの促進・普及に寄与することができた。</p> <p>今後も引き続き、教育委員会事務局や福祉関係部署とともに障害への理解やパラスポーツ普及促進につなげていく。</p>
<p><u>ウ 市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣</u>                      ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の開催に向けて、市内小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p> <p>【目標時期】                      ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】                      市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元ラグビー日本代表選手が市内の小学校（各区1校、計18校）を訪問し、自らの経験等を語る講義等を実施</li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>を契機に、平成28年度に開始し、令和3年度までに90校で実施が完了する見込みとなっており、18校の児童に対して、ラグビー競技を通じたスポーツの振興を図ることができた。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

### 分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(2/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>エ トップアスリート等との連携・協力</b>                      JOCパートナー都市協定を通じてのオリンピックやプロスポーツチームあるいはトップアスリートが立ち上げたNPO法人等と連携・協力することにより、トップアスリートを学校や地域に派遣し、子ども達や多くの市民が一流のアスリートと触れ合う機会を提供し、スポーツへの関心を高めます。</p> <p>【目標時期】                      ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】                      市民局</p>	<p>JOCオリンピック教室：2校                      ・実施予定校：本郷中（12月）、洋光台第二中（中止）                      ・参加予定人数：約120人                      ・派遣オリンピック：未定</p> <p>・トップスポーツチームの情報を掲載した広報紙を作成（市立小学校の全児童に配付）                      ・チームが実施している学校訪問の取組を小中学校へ紹介</p>	<p>オリンピック自身の様々な経験を伝えることで「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等の理解の促進に寄与した。同時に、今後も、トップアスリートとの交流を通じて、運動意欲の向上やスポーツ振興につなげていく。</p> <p>また、イベントや広報により、子どもや多くの市民がトップスポーツチームと触れ合う機会を創出することで、スポーツに取り組む意識の向上や市民の健康増進を図った。今後は、スポーツに関心を持った市民が、継続的にスポーツと関わりをもつことができる仕組みの整備が必要である。</p>
<p><b>オ 大規模スポーツイベントの誘致・開催</b>                      国際大会や全国大会などの大規模イベントの誘致に取り組み、市民のスポーツ観戦やボランティア活動に参加する機会を増やします。また、魅力的な大規模イベントを誘致・開催することにより、世界や全国に向けた横浜の知名度のアップや、経済及び地域の活性化などにも貢献していきます。</p> <p>【目標時期】                      ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】                      市民局</p>	<p>次の大規模スポーツイベントを開催                      ・第36回皇后盃全日本女子柔道選手権大会                      ・2021ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会                      ・2021ジャパンパラ水泳競技大会                      ・2021全日本ジュニア体操競技選手権大会                      ・第38回全日本少年軟式野球大会                      ・横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント2022（予定）</p>	<p>両大会と並び、関係機関等と連携しながら、ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会など、大規模スポーツイベントを安全、かつ、円滑に開催することができた。</p> <p>これにより、横浜の経済及び地域の活性化に貢献していくとともに、大会開催ノウハウを今後の大規模大会誘致に繋げていく。</p>
<p><b>カ スポーツ遺産の保存・活用</b>                      横浜は、テニス、ラグビー、競馬、スポーツクラブ等、多くのスポーツ文化の発祥の地であり、その歴史や伝統を継承していきます。                      また、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックの世界三大スポーツイベントの開催実績を持つこととなる横浜国際総合競技場等のスポーツ施設やボランティア等の人的資源、大規模スポーツイベントの運営知識やノウハウなどのスポーツ遺産を未来の横浜の子どもたちへの財産として残します。</p> <p>【目標時期】                      ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】                      市民局</p>	<p>横浜市スポーツボランティアセンター登録者数：13,447人（2021年10月31日時点）                      実績：横浜マラソン2021ボランティア募集 など</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、スポーツイベントの中止が相次ぎ、ボランティアの活動機会が減少しているが、モチベーション維持を目的にシステムを改修し、研修資料等をオンラインで視聴できるようにした。</p> <p>今後も、コロナ禍でもボランティアの方々が安心して参加できる環境を整備する必要がある。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野: ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(3/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>② 市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興</p> <p><b>ア スポーツボランティアの育成・支援</b>            スポーツイベント等の運営を支えてくれるスポーツボランティアを育成・支援します。また、スポーツボランティアが継続的な活動ができる仕組みを整え、ボランティア意識の醸成を進めていきます。            「横浜市スポーツボランティアセンター」を設置し、市民が積極的・自発的にスポーツに関われる体制づくりやその支援を行います。</p> <p>【目標時期】 H29～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<p>【再掲】            横浜市スポーツボランティアセンター登録者数：13,447人（2021年10月31日時点）            実績：横浜マラソン2021ボランティア募集 など</p>	<p>【再掲】            新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、スポーツイベントの中止が相次ぎ、ボランティアの活動機会が減少しているが、モチベーション維持を目的にシステムを改修し、研修資料等をオンラインで視聴できるようにした。            今後も、コロナ禍でもボランティアの皆様が安心して参加できる環境を整備する必要がある。</p>
<p><b>イ 市民参加型スポーツイベントの充実</b>            スポーツ・レクリエーションフェスティバル、ビーチスポーツフェスタ、市民大会・区民大会など、各競技団体と連携しながら、市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図るとともに、初心者が安心して参加できる環境を整えます。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーションフェスティバル2021参加者数1,000人（予定）</li> <li>・YOKOHAMAビーチスポーツフェスタ2021                ※新型コロナウイルスの影響により中止</li> <li>・市民スポーツ大会・マスターズスポーツ大会参加者数5,200人（予定）</li> <li>・第11回横浜シーサイドトライアスロン大会（2021）                ※新型コロナウイルスの影響により中止</li> </ul>	<p>スポーツレクリエーションフェスティバルや市民体育大会等の既存のスポーツイベントと連携し、誰もが気軽に参加・体験できるイベント・プログラムの充実を図ることにより、多くの市民が身近でスポーツに親しむ機会を提供することができた。            今後、コロナ禍における連携方法を検討する必要がある。</p>
<p><b>ウ 大規模屋内スポーツ施設(スケート場、横浜文化体育館(メインアリーナ施設・サブアリーナ施設(横浜武道館)))の再整備</b>            関内・関外地区の街づくりを進める中で、横浜文化体育館を再整備します。その際、武道を行うことのできる環境を整備します。            また、老朽化した神奈川スケートリンクの再整備を行いました。今後施設のさらなる有効活用を行います。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年12月 旧横浜文化体育館解体完了</li> <li>・設計・令和4年1月～建設（メインアリーナ）</li> </ul>	<p>関内・関外地区の活性化に向けた新たなまちづくり及び市民スポーツ活動の拠点のひとつとして、横浜武道館を供用開始した。            今後供用開始するメインアリーナと共に、街のにぎわいを創出でき、より多くの市民に利用してもらえる施設づくりが引き続き必要である。</p>
<p><b>エ スポーツ情報等の提供</b>            市民が「する」「みる」「ささえる」といった様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報やスポーツボランティアに関する情報、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を横浜市のホームページや広報紙、または、（公財）横浜市スポーツ協会のスポーツ情報サイト「ハマスポ」やホームページ等を通じて提供します。また、携帯端末等の身近な媒体でも情報が提供できるようにしていきます。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営                （年間アクセス数：3,000,000件（予定））</li> </ul>	<p>横浜市スポーツ協会が運営するスポーツ情報サイト「ハマスポ」等を通じた情報発信を行うことにより、より多くの市民に対して本市スポーツ情報を提供することができた。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(4/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>③ <u>ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>開催を契機としたラグビーの普及・啓発</u>  <u>ア 小学校派遣事業（市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣）</u>  <u>《再掲》</u>            ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の開催に向けて、市内18小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p> <p>【目標時期】            ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            市民局</p>	<p>【再掲】            ・元ラグビー日本代表選手が市内の小学校（各区1校、計18校）を訪問し、自らの経験等を語る講義等を実施</p>	<p>【再掲】            ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>を契機に、平成28年度に開始し、令和3年度までに90校で実施が完了する見込みとなっており、18校の児童に対して、ラグビー競技を通じたスポーツの振興を図ることができた。</p>
<p><u>イ カウントダウンイベントの開催</u>            ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の開催期間となる2019年9月20日から11月2日を目途に、大会に向けての機運醸成を図るため、横浜国際総合競技場等で開催が予定されるラグビーの試合に併せ、各種イベントを実施し、大会の認知度や盛り上げにつなげていきます。</p> <p>【目標時期】            H29～R元（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            市民局</p>	<p>(R元年度で終了)</p>	<p>【再掲】            ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>では、本大会を前にしたテストマッチ開催の機会を活用し、本番をイメージしたイベントのトライアル及び本大会に向けて機運を醸成することができた。</p>
<p><u>ウ 日本代表戦やジャパントップリーグ等の試合誘致</u>            2019年に向け、ピッチの検証や運営シミュレーションを行うとともに、機運醸成やラグビー競技の普及を目的に計画的にラグビーの試合を誘致します。</p> <p>【目標時期】            ～R元（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            市民局</p>	<p>(R元年度で終了)</p>	<p>横浜国際総合競技場で開催されたトップリーグや、日豪戦、ブレディスローカップなどに合わせ、本大会に向けた大会運営のシミュレーションや機運醸成の取組を実施することができた。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことが出来るよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます(1/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発（パラリンピック競技体験等）</p> <p><b>ア 障害者スポーツの場の確保と種目の普及</b>            地域団体・横浜市スポーツ協会・横浜ラポール等が連携した地域ネットワークの構築支援や、令和2年1月に開所した障害者スポーツ・文化活動センターラポール上大岡を活用し、地域スポーツ指導者との連携を進め、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。            また、各区のスポーツセンター等における障害者スポーツの指導員の配置、用具の充実、プログラムの提供、よりわかりやすいスポーツ施設等の情報発信に取り組みます。</p> <p>【目標時期】            ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            健康福祉局、市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各区でポッチャ等の用具を貸出</li> <li>インクルーシブスポーツ普及啓発動画や子ども向け冊子の作成</li> </ul>	<p>横浜市スポーツ協会や障害者スポーツ文化センター横浜ラポール、令和2年1月に開所したラポール上大岡等の連携を深め、障害の有無等にかかわらず、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりや担い手の育成が進んだ。</p>
<p><b>イ 障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの実施</b>            障害者と健常者が共に楽しむことのできるイベントや大会の開催や、その支援を行うとともに、障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール、ラポール上大岡）、障害者団体、競技団体、地域団体と連携しながら、各区のスポーツセンター等、地域で障害者・健常者がともに楽しめるインクルーシブスポーツ（※）を推進します。            ※インクルーシブスポーツ:共生社会の実現に向けた取組を推進する、各人の適性にあったスポーツ活動のこと</p> <p>【目標時期】            ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            健康福祉局、市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハマピックの開催：10種目</li> <li>スポーツ・レクリエーション事業の実施：10教室（水泳教室、ボウリング教室、マリノスfuturo事業等の実施）</li> <li>地域におけるインクルーシブスポーツの推進：参加者数1,000人（予定）</li> <li>インクルーシブスポーツイベントの開催：参加者数300人（予定）</li> <li>ゆるスポーツの開発・普及：参加者数250人（予定）</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降、当初計画通りに実施はできなかったが、横浜市スポーツ協会やその加盟競技団体等と連携し、スポーツイベント等の開催に取り組んだ。            また、インクルーシブスポーツの推進においては、障害の有無等にかかわらず、誰もが身近な場所でスポーツを楽しめる機会を提供した。            令和3年度には、障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール・ラポール上大岡）と横浜市スポーツ協会とが連携協定を締結した。            今後も、スポーツに関心を持つ市民が、誰でも気軽に楽しむことができるよう、関係部署と連携してインクルーシブスポーツの推進等に取り組む、共生社会の実現及び介護予防や健康づくりに繋げていく。</p>
<p>② 障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール、ラポール上大岡）と連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進</p> <p><b>ア 地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透</b>            「障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール、ラポール上大岡）」と協力・連携し、各区のスポーツセンターやスポーツ施設の職員等に、定期的（年1～2回）に研修を実施し、障害者スポーツの開始及び継続していくためのノウハウを有する人材の育成を進めるとともに、様々な場面で活躍できる仕組づくりを進めます。</p> <p>【目標時期】            ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール・ラポール上大岡）と横浜市スポーツ協会と、障害者スポーツのより一層の推進のため、連携協定を締結【再掲】</li> <li>各種研修会の開催や出張スポーツ教室等を実施。                ○人材育成事業 20回程度                ○地域支援事業 120回程度</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降、当初計画通りに実施はできなかったが、横浜市スポーツ協会や中途障害者地域活動センター等と連携し、人材育成事業や地域への出張教室に取り組んだ。            令和3年度に、障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール・ラポール上大岡）と横浜市スポーツ協会とが連携協定を締結したことを踏まえ、東京2020大会後もより一層の障害者スポーツの推進のため取組を進めていく。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことが出来るよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます(2/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>イ 特別支援学校におけるスポーツ選手育成強化事業</b> 東京2020大会を契機に、障害者スポーツの普及・促進を行うほか、特別支援学校の児童生徒がスポーツで世界を目指すことを支援するなど、障害のある子どもたちの自立と社会参加につなげます。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 教育委員会</p>	<p>・大会・技術講習会の参加、外部コーチ招聘、（日本代表合宿、海外遠征参加）、備品購入</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の開催見送りが相次ぎ、外部コーチの招聘等についても難しい状況が続いている。 一方、競技用品の購入などを通じ、パラリンピック競技や障害者スポーツの普及啓発に資する取組を今後も継承していく。</p>
<p><b>ウ パラトライアスロンの強化</b> パラトライアスロン競技の強化拠点として横浜ラポールを提供しており、東京2020大会に向けて、競技の普及・強化に向けた取組を推進します。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 健康福祉局、市民局</p>	<p>・2021ワールドトライアスロンパラシリーズ横浜大会（5月15、16日／無観客）</p>	<p>ワールドトライアスロンパラシリーズ横浜大会の開催によって、競技の普及・強化につなげた。 今後、コロナ禍において、どのように取組をすすめていくか検討していく。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます(1/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 市内小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組 ア 「体力アップよこはま2020プラン・子どもの体力向上プログラム【後期5年の方針】」に基づく取組の実践</p> <p>「体力アップよこはま2020プラン・子どもの体力向上プログラム【後期5年の方針】」に基づき、学校・家庭・地域の連携による体育・健康に関する取組を実践推進します。 また、市内小中学校全校で体育・健康に関する指導の全体計画である「体育・健康プラン」を作成し、プランに基づき、学校の特色を生かした「体力向上1校1実践運動」を実施します。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も、一部継続予定）</p> <p>【所管局】 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校において「体育・健康プラン」を作成し、新型コロナウイルス感染症の影響による健康や体力の状況を踏まえた取組を実施</li> <li>「体力・運動能力調査」は各校の状況に応じて実施し、プランや取組の改善に活用</li> </ul>	<p>「体力・運動能力調査」の結果分析を活用し、児童生徒の健康の保持増進と体力の向上に向けた各校での取組を継続していく。 また、多様な運動への関わり方や多様な人と運動やスポーツを楽しむ視点を明確にした、新たなプログラム策定の検討を進めた。</p>
<p>イ 食育の推進</p> <p>日常生活をより健康的に送り、スポーツを活発に行うために、スポーツ団体（プロスポーツチームを含む）、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行っていきます。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 健康福祉局、教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育イベントの実施：1回</li> <li>横浜市食育推進検討部会の開催：2回</li> <li>食育推進研修会の開催：2回</li> <li>食育実践推進校の指定：24校</li> <li>出前授業の実施：330校（見込）</li> <li>栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築：78ブロック</li> </ul>	<p>民間団体・事業者等と連携して食育の周知・推進のためのイベントや、各学校において食育を推進していけるよう、食育推進ネットワークの構築方法を工夫し、校長会等を通して市全体に情報提供を行った。 また、コロナ禍でも食育推進研修会出前授業を通して、学校における食育についての考え方や実践推進校、ブロックによる実践事例を発信し、児童生徒が食について考えられる機会を創出した。 一方、栄養教諭の数が中学校ブロック数に至らず、各学校の必要に応じて食育についての情報共有や相談の環境が整備しきれておらず、今後の課題となっている。</p>
<p>ウ 東京2020大会を契機とした、運動意欲の向上や運動機会の充実</p> <p>東京2020大会を契機とし、オリンピック・パラリンピアン・トップアスリートとの交流等の機会を設けることやオリンピック・パラリンピック教育推進校での取組を通して、運動意欲の向上や、関係機関と連携した運動機会の拡充を図ります。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 教育委員会</p>	<p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京2020大会教育推進校を設置：30校（小27、中1、高1、特1）</li> <li>市教委主催の体育行事にオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、小学生との交流を実施</li> </ul>	<p>【再掲】</p> <p>東京2020大会を契機に、市立学校において各校の特色や実態に応じた教育テーマを設定し、教育活動に東京2020大会の要素を新たに取り入れるなど、年間を通して学校の実情に合わせたオリパラ教育に取り組んでもらうことができた。 また、例年実施している集合での成果報告会が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったが、東京2020大会教育推進校の実践事例をeラーニングにより全校に向けて発信することで、他校における大会レガシーの創出を図った。</p>



## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます(2/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p><b>エ 生きてはたらく知・豊かな心・健やかな体の育成</b>            特色ある9年間一貫したカリキュラム・マネジメントを通して、未来社会に生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成するとともに、「横浜市子ども学力向上プログラム」、「『豊かな心の育成』推進プログラム」、「横浜市子どもの体力向上プログラム」に基づき、取組を推進します。</p> <p>【目標時期】            ～R3 (R4年度以降も継続予定)</p> <p>【所管局】            教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校が「横浜市子ども学力向上プログラム」に基づいて「学力向上アクションプラン」を作成</li> <li>・組織的・計画的な学力向上の取組を推進するため、「横浜市学力・学習状況調査」の分析チャートを作成</li> <li>※「横浜市学力・学習状況調査」の改訂に合わせ、分析チャートについても、改訂に向けての調査研究を実施</li> <li>・道徳授業力向上推進校を設置：36校(各区小1、中1)</li> <li>・道徳授業力向上拠点校を設置：2校(小1、中1)</li> <li>※公開授業による、研究成果の発信も実施</li> <li>・市立高等学校への道徳教育推進教師の配置</li> <li>・「中学生のための礼儀・作法読本」を市立中学校・特別支援学校中学校部の1・2年生、義務教育学校の7・8年生に配付</li> <li>・各校において「体育・健康プラン」の作成、実施</li> </ul>	<p>「横浜市子ども学力向上プログラム」に基づき各学校が作成している「学力向上アクションプラン」を、組織的・計画的な取組の推進に繋げるため、「横浜市学力・学習状況調査」分析チャートを作成した。</p> <p>今後、この分析チャートについて、より学校が活用しやすいツールとなるよう、個人の学力の伸びに着目できるような改訂のため調査研究を継続していく。</p> <p>また、平成26年度より道徳授業力向上推進校を設置、更に研究を深めていくことを目的に、平成28年度より道徳授業力向上拠点校を設置し研究を進めてきた。道徳科の教科化に向け各校が準備を進める中、推進校・拠点校が実践発表を行い、推進の中心的役割を果たしたことで、市立小中学校全体の授業力向上につながった。</p> <p>今後、道徳科の授業を要とする道徳教育の充実のため、全教師が参画する機能的な体制づくりを行い、道徳教育を中心になって推進する道徳教育推進教師の研修を充実させ、中学校においては「中学生のための礼儀・作法読本」を活用して各教科等における道徳教育の充実を図る。</p> <p>さらに、各学校が作成している「体育・健康プラン」を踏まえ、「体力・運動能力調査」の結果分析を活用し、児童生徒の健康の保持増進と体力の向上に向けた各校での取組を継続していくとともに、多様な運動への取組み方や多様な人と運動やスポーツを楽しむ視点を明確にした、新たなプログラムの策定を検討していく。</p>
<p><b>オ 幼原期における運動習慣の啓発・普及活動</b>            体力の重要性に関して、保護者への啓発セミナーや、ウェブ・健診等を活用した情報提供について検討していきます。また、親子で体験できる各種運動プログラムの提供や、保育園や幼稚園、地域子育て拠点等にスポーツ指導者を派遣し、遊びながら体を動かす楽しさを伝えていく事業を実施します。</p> <p>【目標時期】            ～R3 (R4年度以降も継続予定)</p> <p>【所管局】            市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつらつキンダー事業                実施回数：200回(予定)、参加者数：5,200人(予定)</li> </ul>	<p>保育所にスポーツ指導者等を派遣することにより、遊びながら体を動かす楽しむ機会を子どもたちに提供することができた。</p> <p>今後、コロナ禍における活動手法を検討する必要がある。</p>
<p><b>カ 子どもの体力向上事業の実施及び拡充</b>            小学校の中休みや放課後の時間にスポーツ指導者や地域の協力者を派遣し、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を提供する「いきいきキッズ事業」を拡充し、実施していきます。</p> <p>また、地元の大学と連携し、学校や地域に体育部所属の学生等を派遣し、授業の補助や教室事業等を実施します。</p> <p>【目標時期】            ～R3 (R4年度以降も継続予定)</p> <p>【所管局】            市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきキッズ事業                実施回数：120回(予定)、参加者数：12,000人(予定)</li> </ul>	<p>小学校の中休みや放課後の時間にスポーツ指導者や地域の協力者を派遣することにより、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を提供することができた。</p> <p>今後、コロナ禍における活動手法を検討する必要がある。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます(3/3)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>② 横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成</p> <p><b>ア スポーツマネジメント人材の育成</b></p> <p>横浜商業高校スポーツマネジメント科において、横浜市スポーツ医科学センターやプロスポーツ関係者等との連携とともに、トップアスリート、スポーツ関係研究者・経営者等に触れる機会を設け、競技力の向上及びスポーツ振興に関わる人材を育成します。</p> <p>【目標時期】 ～R2（R3年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講義</li> <li>・理学療法士の派遣</li> <li>・専属トレーナーの雇用 等</li> </ul>	<p>東京2020大会教育推進校として、外部機関との連携やアスリート、スポーツビジネス関係者等の講義等を行い、子どもたちの体力向上及びスポーツ振興に係る人材を育成することができた。</p> <p>今後も引き続き、インクルーシブな視野を持ちながら、スポーツを通して健康分野やスポーツビジネスの振興発展に寄与する人材の育成を目指していく。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます(1/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p>① ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進</p> <p><b>ア 健康づくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩数計やスマホアプリを活用した「よこはまウォーキングポイント」や、様々な健康行動を促す健康イベントなど、日常生活の中で楽しみながら継続して取り組める仕組みにより、市民の健康行動の習慣化を図り、地域とも連携しながら健康づくりを推進します。</li> <li>東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、望まない受動喫煙の防止を主たる目的に健康増進法が改正されました。これを踏まえ、本市において受動喫煙防止対策の取組を強化し、市民や来街者の健康に配慮した環境を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○市内事業所や市民等への普及啓発、問合せへの対応</li> <li>○市内飲食店等における禁煙または喫煙等の標識掲示の徹底</li> <li>○受動喫煙防止対策の取組検討</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 健康福祉局、道路局、環境創造局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よこはまウォーキングポイント参加登録者数 357,992人(R3年12月末時点)</li> <li>・健康横浜21推進事業 集団健康教育事業:18区 「健康横浜21推進会議」の開催:2回</li> <li>・地域人材育成・活動支援 保健活動推進員事業:5,000回 食生活等改善推進員育成支援:400回</li> <li>・健康相談等 生活習慣改善相談:650回</li> <li>・舗装の工事や案内板、ハマサポベンチの設置等を実施:磯子区、保土ヶ谷区など8区</li> <li>・健康器具やウォーキングルート案内板の設置:5区5公園</li> <li>・冊子「公園で健康づくり」を配布し活用・周知</li> <li>・区と連携した健康づくりイベントの開催:2箇所</li> <li>・交通機関車内広告:市営地下鉄</li> <li>・横浜市営地下鉄ホームドア広告:市内主要駅3駅(予定)</li> <li>・標識調査:2,503件</li> <li>・通報等対応件数:270件(R3年11月末時点)</li> <li>・公園等での啓発ポスター掲示枚数:1,679枚(R3年11月末時点)</li> </ul>	<p>市民の皆さまが健康ライフスタイルを実践するきっかけや継続を後押しするため、「よこはまウォーキングポイント」や「よこはま健康スタンプラリー」を推進した。これにより、令和2年度、「よこはまウォーキングポイント」は累計の参加登録者数が34万人を超え、研究機関との事業検証の結果、高血圧の新規発症抑制や、高齢者の運動機能維持といった事業効果も確認された。</p> <p>また、第2期健康横浜21に基づき、各関係機関・関係団体と連携し、生活習慣の改善と生活習慣病の重症化予防のための普及啓発を行うとともに、地域における健康づくり活動の担い手となる人材の育成や活動支援等を行った。</p> <p>さらに、案内板やハマサポベンチの設置、区役所がウォーキング教室を実施している公園等での健康器具やウォーキングルートの整備、専門家を招いたストレッチ等の現地講習会等、ハード・ソフト両面から市民の健康増進につながる取組を行った。</p> <p>一方、望まない受動喫煙を防止するため、健康増進法の内容について周知啓発を行ったほか、飲食店への巡回等を行い、法に基づく施設への指導等を実施し、ルールが順守される環境づくりを推進した。</p>
<p>② 高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進</p> <p><b>ア 高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のニーズが高い、健康づくりや体力づくりの教室などのほかに、介護予防教室など様々なニーズを考慮しながら、高齢者のスポーツ教室やスポーツイベントのより一層の充実を図ります。</li> <li>・横浜市オリジナル体操「ハマトレ」の普及啓発を実施します。横浜市歌にあわせた「ハマトレ～体験編～」を活用し運動に取り組むきっかけづくりを推進します。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3(R4年度以降も継続予定)</p> <p>【所管局】 健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に関する講演会、講座・教室等の開催:540回</li> <li>・10月の体力づくり月間に合わせて、ラジオ放送を活用し、高齢者の健康づくり・介護予防について啓発を実施</li> <li>・横浜市オリジナル体操「ハマトレ」の普及啓発を実施</li> <li>・「ハマトレ」のYouTubeでの動画配信を通して、啓発を実施</li> </ul>	<p>高齢者も楽しむことができるスポーツや生涯スポーツの推進として、各区及び各地域包括支援センターにおいて、健康づくり・介護予防の知識や取組に関する講演会、講座・教室等を実施し、高齢者の健康づくりの教室やイベントのより一層の充実を図った。</p> <p>また、高齢者の健康づくり・体力づくりに必要な情報や、自宅でできる運動として横浜市オリジナルトレーニング「ハマトレ」を、様々な手法で情報発信し、コロナ禍においても、運動に取り組むきっかけづくりを推進した。</p> <p>各区においては、区全体の健康課題の共有及び地域の実情に合わせた健康づくり・介護予防の普及啓発の取組を検討・実施し、市民の健康増進に努めた。</p> <p>今後も、若い世代からの健康づくりを含めた、様々なニーズを考慮しながら、介護予防・健康づくりの知識や取組に関する講演会等を企画・実施していく。</p> <p>特に、コロナ禍においては、高齢者の生活不活発が増大しないよう引き続き、健康づくり・体力づくりに必要な情報を発信していく必要がある。</p>

## 柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます(2/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>イ 生涯スポーツへの支援(シニアスポーツの展開・レクリエーションを主体としたスポーツ大会の開催等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通じて生きがいづくりや社会参加を促進するため、シニアスポーツの展開を図るとともに、健康・体力づくり運動を推進し、暮らしの一部として習慣化することを支援します。また、スポーツ等に親しむことのできる機会や場の提供を推進します。</li> <li>・横浜市老人クラブ連合会などを通じ、健康の保持増進と高齢者相互の親睦を図るため、ゲートボール、グランドゴルフなどの各種スポーツや、レクリエーションを主体としたスポーツ大会を開催します。</li> <li>・高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典として毎年開催される「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」に市代表選手団を派遣し、健康・スポーツ活動等の高揚を図ります。また、2022年神奈川県・横浜・川崎・相模原大会の開催に向け、スポーツを通じた高齢者の健康づくりの機運を盛り上げていきます。</li> <li>・身近な地域で健康づくりやスポーツ、レクリエーションに取り組めるよう、各区スポーツセンターで、子どもから高齢者までを対象とした各種スポーツ教室を開催します。</li> <li>・誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも各自の興味やレベルに応じて参加できるよう多世代・多種目・多志向を理念とする総合型地域スポーツクラブの育成を推進し、高齢者や障害者をはじめ誰もが身近な地域でスポーツを実施する機会を提供します。</li> <li>・高齢者向けの健康づくりの取組として、健康づくりの場の創出に取り組みます。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 市民局、健康福祉局、環境創造局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各区におけるヨコハマさわやかスポーツの普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）：開催回数3,500回、参加者数70,000人</li> <li>・ゲートボール大会（14チーム84人出場）</li> <li>・グラウンド・ゴルフ大会（51人出場）</li> <li>・ペタンク大会（18チーム71人出場）</li> <li>・健康づくり研修会：1回</li> <li>・ポッチャ体験会：2回（開催延受講者見込み30人）</li> <li>・第34回全国健康福祉祭神奈川・川崎・相模原大会について、令和4年度の開催に向けた実行委員会及び常任委員会の設立。</li> <li>・高齢者・中高年健康教室（予定）：開催回数1,844回、参加人数77,719人</li> <li>・クラブ設立に向けた相談・アドバイスを実施</li> <li>・横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の会議開催：4回（書面開催）</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの普及啓発のため、市や市スポーツ協会のホームページにクラブの情報を掲載</li> <li>・冊子「公園で健康づくり」を配布し活用・周知</li> <li>・区と連携した健康づくりイベントの開催：2箇所</li> </ul>	<p>「さわやかスポーツ」の普及や総合型地域スポーツクラブの育成・支援により、誰もが気軽に身近な地域でスポーツを楽しめる機会を提供することができた。</p> <p>また、シニアスポーツ大会や健康づくり研修会等を通して、高齢者の心のふれあいと健康維持を進めるとともに、正しいルールやマナーへ理解を深め、スポーツの普及・促進に繋げることができた。</p> <p>2022年開催予定の第34回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会については、今まで派遣していなかった種目についても出場したいという声が増えるなど、新たな生きがいづくりや市民の健康増進に繋がっているため、今後も新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、感染症対策を徹底した大会運営を検討していく必要がある。</p>

### 柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

#### <考え方>

人々の活力や市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。文化芸術の持つ創造性を様々な施策に生かし、コミュニティの活性化を図るなど創造的なまちづくりを進めます。

横浜ならではの文化プログラムを実施し国内外に発信するとともに、賑わいづくりと経済の活性化につなげます。

- 1 横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します。
- 2 子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組みます。
- 3 一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います。
- 4 アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との協働を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます。



#### 《取組から生まれるレガシー》

- a 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上
- b 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現
- c 文化芸術活動の拠点機能の充実や地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援などによる心豊かな市民生活の実現
- d アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開

### 柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野: 横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちににぎわいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します(1/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの推進</p> <p><b>ア 文化プログラムの推進</b></p> <p>東京2020大会開催までの間、横浜トリエンナーレ、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA、横浜音祭りを中核的な取組として実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜トリエンナーレ事業</li> <li>Dance Dance Dance @ YOKOHAMA(横浜芸術アクション事業)</li> <li>横浜音祭り(横浜芸術アクション事業)</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021の開催</li> <li>横浜音祭り2022(仮称)開催準備</li> <li>ヨコハマトリエンナーレ2023(仮称)開催準備</li> </ul>	<p>横浜ならではの文化プログラムとして「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA」や「横浜音祭り」、多様な価値観を示す質の高い現代アートの国際展として「横浜トリエンナーレ」を開催し、街に一層の賑わいを創出するとともに、横浜の文化芸術の魅力を世界に発信し、文化芸術による新たな価値と活力を作り出すことができた。</p>
<p><b>イ beyond2020プログラムの認証の実施</b></p> <p>国が進める文化プログラムの認証制度である「beyond2020プログラム(※)」の認証組織となり、国と連携して2020年に向けた機運醸成を図るとともに、認証業務を通じて、共生社会・国際化につながる市内の文化芸術活動を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化プログラム推進事業</li> </ul> <p>※beyond2020プログラム：東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、日本文化の魅力を発信するとともに障害者や外国人にとってのバリアを取り除く取組を対象に認証を行う制度</p> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市による認証件数：430件（H30年3月1日～R4年3月31日）見込み</li> <li>文化観光局関連事業の東京2020参画プログラム認証状況：15件（H30年3月1日～R4年3月31日）見込み</li> </ul>	<p>beyond2020プログラムの認証を通じて、横浜市の文化事業・活動を国内外に発信するとともに、共生社会・国際化に繋がるレガシー創出を図ることができた。</p>
<p>② 環境技術を活用したアートイベント(スマートイルミネーション)やユニバーサルな文化事業(バラトリエンナーレなど)の実施</p> <p><b>ア 環境技術を活用したアートイベントの実施</b></p> <p>省エネルギー技術とアーティストの創造性を融合させた、新たな夜景の創造を試みる横浜ならではの国際アートイベントを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートイルミネーション事業</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R元</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<p>(R元年度で終了)</p>	<p>環境とアートの融合等による先進的な夜景演出や都心臨海部の賑わい創出、関連産業との連携による省エネ啓発等の役割を果たした。</p>

### 柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野:横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちににぎわいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します(2/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>イ ユニバーサルな文化事業の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルとの協働により、新たな芸術表現を生み出す現代アート国際展を開催します。</li> <li>○ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」に向けてアートワークショップや支援者育成を実施します。</li> <li>・障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルとの協働により、新たな芸術表現を生み出すパフォーマンス公演等を実施し、取組の成果をレガシーとして継承していきます。</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 文化観光局、健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨコハマ・パラトリエンナーレレガシー事業の実施</li> <li>・ソーシャルサーカス体験ワークショップの開催</li> <li>・学校・事業者向けプログラムの開発</li> </ul>	<p>多様な人々と共創するための人材育成や、ワークショップを通じて社会課題にもアプローチできるプログラムの調査・研究なども行ってきたことにより、アートの現場だけでなく、今後のダイバーシティ社会においても意義あるものとなった。</p> <p>また、障害者と多様な分野のプロフェッショナルによる現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」を開催し、新たな芸術表現を生み出すパフォーマンス公演等を実施し、障害の有無を問わず、誰もが参加し、楽しめる環境づくりや、障害者の創作活動を支える人材の育成を進めました。</p>
<p>③ <u>創造性を生かした横浜ならではの夜の観光コンテンツによる賑わい創出</u></p> <p><b>ア 創造的イルミネーション事業の実施</b></p> <p>都心臨海部において、創造性を生かした横浜ならではのイルミネーションや街全体の光や音の演出を行うことにより、街に賑わいを創出します。</p> <p>【目標時期】 R元～R3（R4年度以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<p>創造的イルミネーションイベント「ヨルノヨ-YOKOHAMA CROSS NIGHT ILLUMINATION-」を実施。 （会期：令和3年11月18日（木）～12月26日（日）） 来場者数：約131万人</p>	<p>イベントに市内外から多くの方が来場し、都心臨海部における夜の賑わいを創出することができ、横浜のランドマークや夜景を活かした演出を行うことによって都市ブランドの向上に寄与した。</p> <p>今後、特色ある横浜ならではのイルミネーションとして定着させるとともに、都市ブランディングの一環として事業を継続していくため、地域の企業・団体の協力が不可欠であり、さらに公民一体となって事業を進めていく必要がある。</p>

### 柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野:子どもたちの豊かな感性や創造性をはぐくむ文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組みます

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 子どもたちの文化芸術体験の充実</p> <p><b>ア 横浜トリエンナーレ事業を通じた次世代育成</b> 横浜トリエンナーレ事業において、子どもたちが展覧会を鑑賞する機会をつくるなど世界の芸術作品を身近に感じることができる取組を進めます。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<p>(事業開催年度ではないため取組はなし)</p>	<p>将来を担う世代を対象に参加作家によるワークショップなどを通して現代アート作品を体験し、異なるもの見かたや解釈、多様な価値観について理解を深める機会を設けた。 コロナ禍での開催となったため様々な制限があるなか、オンラインを活用したプログラムの導入など、新たな取組を積極的に取り入れることとなった。</p>
<p><b>イ 横浜芸術アクション事業を通じた次世代育成</b> 横浜芸術アクション事業（横浜音祭りやDance Dance Dance @ YOKOHAMA）において、学校にプロのアーティストを派遣し、ワークショップの開催などを通じて、次世代育成に取り組みます。 ・横浜芸術アクション事業（次世代育成）</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021の開催</li> <li>・TENDRE×yurinasia出演者オーディションの開催</li> <li>・18区ダンスワークショップの開催</li> <li>・ダンス部応援プロジェクトの実施</li> <li>・[共催]カレッジフラの実施</li> <li>・[共催]日本高校ダンス部選手権全国大会の実施</li> <li>・スクール・オブ・ダンスの実施</li> <li>・トップ事業公演への学生招待（無料）</li> </ul>	<p>ワークショップ・オーディションを通じて、次世代を担うダンサーの発掘・育成を実施した。また、主演公演に学生を無料招待し、豊かな創造性や感性を育む機会を創出することができた。 新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムの参加者数を制限するなかでの実施となったが、感染症対策を講じた上で可能な限り実施することができた。</p>
<p>② 新進アーティストの発掘・育成・支援</p> <p><b>ア クリエイティブ・チルドレン・フェロースHIPの実施</b> ・次世代を担う若手アーティストがキャリアアップ活動を行うためのフェロースHIP型の支援を行います。</p> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<p>・U39アーティスト・フェロースHIP活動助成 採択：6件／申請：47件</p>	<p>新進アーティストへの活動支援助成を通じて国内外で活躍するチャンスを生み出し、採択されたアーティストが活躍することにより横浜のプレゼンスの向上につながった。</p>



### 柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野：一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 地域における文化芸術活動の拠点機能の充実</p> <p><b>ア 障害のある方の文化芸術活動を支援する環境及び仕組みの整備</b>            障害者芸術文化活動を支援する人材を確保します。また、カリキュラムの作成及び企画展を通じた実地活動の場を作り、支援人材の育成を図っていきます。            これらの取組を通して、活動団体の更なる活性化を図り、将来的な協議会機能の構築を目指します。            ・障害者芸術活動支援ネットワーク構築事業</p> <p>【目標時期】            ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            健康福祉局</p>	<p>・企画展の開催：1回</p>	<p>障害者芸術文化活動を支援する人材の発掘を目指し、企画展を通じた実地活動の場作りや支援人材の育成に取り組んできました。            この取組を活かし、障害のある方の文化活動の更なる活性化を図り、将来的な関係団体等による協議会機能の構築を目指していく。</p>
<p>② 地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援</p> <p><b>ア 横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトの構築</b>            世界の注目が集まるこの時機を捉え、①鑑賞したい人、②発信したい人、③調べたい人（アーティストやアーカイブ）など、横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトを、構築・運営・維持管理します。            ・総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトの構築・運営・維持管理</p> <p>【目標時期】            ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】            文化観光局</p>	<p>・総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトの運営・維持管理</p>	<p>市全域の総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトを構築したことにより、横浜市のプレゼンスの向上につながった。            今後も、各イベントの主催者や施設運営者と常に情報交換を行い、連絡を密にする必要がある。</p>

### 柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野:アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との共同を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出</p> <p><b>ア プラットフォームの設立・運営</b>            アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術創造都市プラットフォームの運営（WE BRAND YOKOHAMAの開催：12月13日（参加者：33名）、ハマの大喜利の開催：1回（参加者：31名））</li> <li>・ワンストップ相談窓口の設置運営</li> <li>・横浜市クリエイターデータベースの運営：登録数66組（12月末時点）</li> </ul>	<p>文化芸術創造都市プラットフォームとして、アーティスト・クリエイター、企業、NPO、大学等の様々な団体会い参加するワークショップ「WE BRAND YOKOHAMA」、やアーティスト・クリエイターと地元企業とつなげる「ハマの大喜利」など、様々なプレイヤーをつなげるプラットフォームが形成された。</p> <p>今後、プラットフォームをより効果的に運営していくためにも、継続的な活動により、様々なプレイヤーの参加を促進していくことが望ましい。</p>
<p>② アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり</p> <p><b>ア プラットフォームの設立・運営《再掲》</b>            アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術創造都市プラットフォームの運営（WE BRAND YOKOHAMAの開催：12月13日（参加者：33名）、ハマの大喜利の開催：1回（参加者：31名））</li> <li>【再掲】</li> <li>・アーティスト・クリエイターの交流促進や情報発信のイベント「関内外OPEN!13」の開催</li> </ul>	<p>【再掲】</p> <p>文化芸術創造都市プラットフォームとして、アーティスト・クリエイター、企業、NPO、大学等の様々な団体会い参加するワークショップ「WE BRAND YOKOHAMA」、やアーティスト・クリエイターと地元企業とつなげる「ハマの大喜利」など、様々なプレイヤーをつなげるプラットフォームが形成された。</p> <p>また、「関内外OPEN!」を通じ、アーティスト・クリエイター同士の交流を進めるとともに、文化芸術創造都市の発信にも寄与した。</p> <p>今後、プラットフォームをより効果的に運営していくためにも、継続的な活動により、様々なプレイヤーの参加を促進していくことが望ましい。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

### <考え方>

横浜のプレゼンスやブランド力を高めるためのシティプロモーションを展開し、文化芸術創造都市、環境未来都市、世界に開かれた国際都市、ビジネスチャンスあふれる都市など、横浜が持つ様々な姿を世界に魅せていきます。

また、国内外からの誘客を強化し、観光客など来訪者の滞在環境や回遊性を一層充実させるほか、MICE機能の強化やビジネス環境の向上を進め、さらなる賑わいと活力を創出します。

- 1 「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくり」を進めます。
- 2 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化（花）等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます。
- 3 再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します。
- 4 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します。



### 《取組から生まれるレガシー》

- a 「選ばれる都市 横浜」の実現
- b 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
- c 快適な滞在環境の整備（案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち）
- d 「国際的なMICE拠点都市」の実現

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(1/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① 横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開</p> <p><b>ア 横浜都心のまちづくりや、広域ネットワークの整備による、都市の魅力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜都心（都心臨海部及び新横浜都心）のまちづくりや、広域ネットワークの整備により、都市活力を向上させ、多くの人を惹きつける都市づくりを推進します。</li> <li>○横浜駅周辺地区（（仮称）横浜駅西口開発ビルや駅前広場等周辺基盤の整備）</li> <li>○みなとみらい21地区（国際業務機能の集積及び観光・エンターテインメントの推進）</li> <li>○関内・関外地区（新市庁舎整備及び周辺とのアクセス性・回遊性向上の取組（さくら橋）、旧市庁舎周辺のまちづくり等）</li> <li>○山下ふ頭周辺地区（都心臨海部の新たな賑わい拠点の形成に向けた再開発の推進及び更地の暫定利用）</li> <li>○東神奈川臨海部周辺地区（区画整理や再開発等による新たなまちづくりの推進）</li> <li>○新横浜都心（都市環境の変化に適応した、適正な土地利用およびまちの活性化の推進）</li> <li>○横浜北西線の整備による、広域ネットワークの形成</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 都市整備局、総務局、道路局、港湾局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エキサイトよこはま22推進事業</li> <li>・中央西口に身障者用車両乗降場屋根を整備</li> <li>・きた西口に改札階から歩行者デッキへの屋根を整備</li> <li>・東口の民間開発・基盤整備の取組を推進</li> <li>・横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発事業：再開発ビルの躯体工事を実施</li> <li>・みなとみらい21地区：街区開発進捗率約91%（暫定施設含む 約96%）</li> <li>・旧市庁舎街区：基本計画協定、公有財産売買契約、一般定期借地権設定契約を締結</li> <li>・山下ふ頭の再開発：事業推進（動くガンダム等賑わいの創出）</li> <li>・東高島駅北地区：土地区画整理事業による基盤整備及び埋立工事を推進</li> <li>・新横浜南部地区：駅前周辺地権者による再開発準備組合の支援</li> </ul>	<p>【横浜駅周辺地区】 西口では、国際都市横浜の玄関口に相応しい駅前広場を目指し、屋根整備を行った。東口では、関係者と連携を図りながら、民間開発や駅前広場、デッキ等の基盤整備を検討するなど、国際競争力強化に資するまちづくりを推進した。</p> <p>今後、都心臨海部の強化に向けみなとみらい21地区との相乗効果をより発揮していくほか、JR横浜タワーの開業や西口駅前広場整備の効果を周辺に波及させた周辺開発を促進するとともに、関連する基盤の強化・充実を図る必要がある。</p> <p>また、国家戦略住宅整備事業である特区を活用した、横浜駅きた西口鶴屋地区の市街地再開発事業により、多様な都市機能を集積した土地の高度利用を図るとともに、駅を中心とした歩行者ネットワークの構築により、回遊性の向上につながった。</p> <p>引き続き、近隣住民への配慮等を行いながら、事業を推進していく。</p> <p>【みなとみらい21地区】 街区開発が順調に進み、進捗率は約83%から約91%となり、多様な街のにぎわいを創出する大規模音楽ホールや大学等が完成した。</p> <p>開発進捗率が90%を超え、今後の街のにぎわい創出にエリアマネジメントの取組が重要性を増す中、新型コロナウイルス感染症による影響にどのように対応していくかが今後の課題となっている。</p> <p>【関内関外地区】 新市庁舎が令和2年6月に供用開始し、関内駅北口の整備も完了した。また、北仲通地区の安全で快適な歩行ネットワークが確保され、周辺地区とのアクセス性・回遊性の向上に寄与した。引き続き、令和7年下期の旧市庁舎街区の開業に向けて、関内・関外地区の魅力ある街づくりを進めていく。</p> <p>【山下ふ頭周辺地区】 動くガンダムの期間延伸等、賑わいの創出とともに、新たな事業計画の策定に向けた検討等を進めていく。</p> <p>【東神奈川臨海部周辺地区】 東高島駅北地区は、現在事業中のため、引き続きまちづくり実現に向けた整備を進め、都市の魅力向上につなげる必要がある。</p> <p>【新横浜都心】 新横浜南部地区再開発準備組合の設立を行い、引き続き、横浜都心において、魅力ある街づくりを進めていく。</p> <p>【横浜環状北西線の整備による、広域ネットワークの形成】 横浜北西線の開通により、横浜港と東名高速道路が直結され、横浜市北西部と横浜都心、湾岸エリアとの連絡が強化された。</p>

#### 柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(2/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>イ シティプロモーションの展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜の認知やブランド力向上を図るため、ターゲットに応じた効果的な手法により、プロモーションを展開します。</li> <li>都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの実現に向けた実証実験を行います。</li> <li>訪日後の動線上である空港や主要ターミナル等においてプロモーションを展開します。</li> <li>外国メディアを活用し、スコットランド（英国）を対象としたプロモーションを実施し、横浜への関心・認知度向上を図ります。</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局、国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査分析事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化観光施設等の認知度、来訪意欲などの調査実施</li> <li>・横浜が目指す都市のブランドイメージの浸透度の指標設定に向けた調査実施</li> </ul> </li> <li>○パーソナルモビリティ実証実験事業 公道実証実験の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間：R3.4.1～R4.3.31予定</li> <li>・実施日数：200日程度</li> <li>・実施回数：250回程度</li> <li>・参加者数：500名程度</li> </ul> </li> <li>○シティプロモーション事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>【国内】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材誘致によるメディア露出 広告価値換算額は年度末に集計</li> <li>・Facebookの活用による魅力発信（週1回投稿） フォロワー数：20,412人（R4年1月時点）</li> </ul> </li> <li>【国外】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタグラムの活用による魅力発信（365日投稿） フォロワー数：88,226人（R4年1月時点）</li> <li>・海外テレビネットワークでのミニニュース番組の活用による魅力発信（年4回放送）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>では、ラグビーの関心が高い英国やオーストラリア等にも広告出稿するなど、機会を捉えたプロモーションにより、海外に向けての発信の成果が得られた。</p> <p>また、文化観光施設やイベントの認知度等の調査や横浜のブランドイメージの調査を行うことで、施策のPDCAに活用することができた。</p> <p>パーソナルモビリティ実証実験事業では、ツアーコース周辺の事業者や許認可権限を持つ機関等の理解を得て、ルートの多様化に取り組むとともに、訪日外国人向け英語ツアーを実施し、都心臨海部における横浜ならではの新たな観光コンテンツとして、国内外へ魅力を発信できた。</p> <p>なお、コロナ禍であったため、オリパラを契機とした横浜訪問にはつながらなかったが、横浜の観光だけでなくSDGsの取組について、スコットランドを中心とする英国へ発信する機会となり、現地における横浜のプレゼンスを高めることができた。</p>

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(3/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p><b>ウ 国内外からの集客の推進</b>            国内外からの集客のため、誘客プロモーションと迎賓・観光施設の機能強化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○メディア・旅行会社を対象としたセールス・プロモーションを実施</li> <li>○国内向けセールス・プロモーションを実施</li> <li>○訪日観光客の横浜での滞在・観光の促進</li> <li>○国指定名勝三溪園を維持・保存するとともに、国内外からの集客及び日本文化発信の拠点として活用</li> <li>○横浜への来街者等向けに、会場周辺の飲食店等を掲載したマップを新たに作成・配布し、市内回遊を促進</li> <li>○商店街が実施するオリンピック・パラリンピックに関連するイベント等への支援を実施</li> <li>○飲食情報を提供するサイト等を活用した、テイクアウトやデリバリーを行う飲食店のPRを実施</li> <li>○外国人観光客を意識した、技能の展示や体験等を三溪園など観光施設等で実施</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局、経済局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国内外からの誘客事業</li> <li>【国内】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育旅行等への助成</li> <li>・フィルムツーリズムによる市内回遊促進</li> <li>・東京2020大会に向けた街の賑わい創出プロジェクト開催</li> <li>・大会会場周辺等の「涼」をテーマとした飲食店や観光施設等を紹介するクールスポットマップを作成</li> </ul> </li> <li>【国外】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020大会東京メディアセンターへの出展（神奈川県と連携）</li> <li>・欧米向けウェブメディアでの情報発信</li> <li>・中国OTA、Ctripを活用したプロモーション</li> <li>・クルーズ関連事業者向けFAMトリップの実施</li> <li>・中国と米国西海岸の「観光レップ」による現地旅行会社・メディアへのセールス、情報収集・発信</li> </ul> </li> <li>○三溪園施設整備等支援事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財（臨春閣、旧東慶寺仏殿）の修理</li> <li>・季節の催事（桜、蓮、紅葉等）における、人数限定イベントや、飲食事業者等と連携した鶴翔閣での懐石料理付きプレミアムツアーなど、新たな企画の実施</li> </ul> </li> <li>○商店街が実施する東京2020大会に関連するイベント等への支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金交付額：2,768千円</li> <li>・補助金交付件数：6件</li> <li>・来街者への啓発グッズ等配布：4件、商店街イベントチラシ記載内容で機運醸成：1件</li> <li>・街頭バナー設置等：1件</li> </ul> </li> <li>○飲食情報を提供するサイト等を活用した、テイクアウトやデリバリーを行う飲食店のPR               <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年7月から9月まで、「ぐるなび」内に特設ページを開設し、テイクアウトやデリバリーに対応可能な市内飲食店の情報を掲載。</li> <li>・登録店舗数：1,023店舗</li> </ul> </li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019™では、新横浜エリアや都心臨海部エリアでの賑わい創出やラグビー観戦客の受入環境整備など、様々な取組を区局横断で連携して実施した結果、外国人観光客の市内回遊が促進され、市内主要ホテルにおける外国人比率が過去最高水準となるなど、市内経済活性化に寄与した。</p> <p>東京2020大会では、横浜への来街者等向けに、オリンピック会場周辺の「涼」をテーマとした飲食店や観光施設等を紹介するクールスポットマップを制作し、鉄道各社と連携して市内・近郊エリアに広く配架することで、市内回遊促進を行った。【公式】横浜観光情報ウェブサイト内にもクールスポットマップの情報を掲載し、夏に回遊できる観光情報として引き続き活用される。</p> <p>今後、コロナ収束後を見据えた、年間を通じた新たな魅力創造、来園者満足度の向上、プロモーションの拡充等に継続的に取り組む必要がある。</p> <p>また、商店街のイベント等に東京2020大会を関連付けることで、大会の賑わいづくり及び商店街の魅力創出に一定の効果があった。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(4/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>② インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり</p> <p><b>ア 外国人観光客の受入環境の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内所の運営など国内外からの観光客の受入環境整備やユニバーサルツーリズムの推進</li> <li>多様な文化圏からの観光客の受入環境整備や誘客の推進</li> <li>横浜観光情報公式サイトの多言語対応強化、外国人観光客への情報拠点の機能拡充、市内事業者向け研修などの実施</li> <li>災害発生時の避難先など、来訪外国人等の安心な滞在に向けた多言語情報をスマートフォン向けに提供します。</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 文化観光局、国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内3か所の観光案内所運営、民間観光案内所への支援</li> <li>観光マップの作成（日本語、英語、韓国語、中国語簡体字、中国語繁体字）</li> <li>ユニバーサルツーリズム理解促進のための研修実施：1回</li> <li>歩行者案内地図の更新</li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>では、観戦客の回遊促進を目的としたシャトルバスの運行や、観光MICE共創推進事業を実施した。</p> <p>また、新横浜エリアや関内エリア等の横浜ユニバーサルツーリズム・モデルコースを策定し発信するほか、多言語の観光マップを作成・配布する等、受入環境整備の向上を図った。</p> <p>東京2020大会では、スポーツ観戦を意識した観光情報ウェブサイトの韓国語サイトの改修、大会での競技観戦を意識したスポーツページの制作、機械翻訳機能導入による多言語化、市内事業者向け研修等により受入環境を整備・促進した。</p> <p>今後も、障害等の有無や年齢に関わらず、全ての人が安心して旅行を楽しめる都市・横浜を目指し、関係団体や事業者と連携して、受入環境の向上やプロモーションを継続して実施していくとともに、横浜市国際交流協会と連携の上、在住外国人向けの多言語による災害・防災情報の発信を実施していく。</p>
<p><b>イ 商店街のインバウンド対応強化への支援・プロモーションの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客が訪れやすい環境づくりに取り組む商店街に対して、ハード整備（Wi-Fi整備等）やソフト事業（多言語広報媒体の作成、キャッシュレス決済導入支援、一商店街一運動、ハマの商店街おもてなし事業等）への支援、セミナーの開催など、多様な支援を行います。</li> <li>ウェブページやリーフレット、その他メディアを通じて、商店街の魅力を外国人観光客に発信します。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 経済局</p>	<p>【ソフト支援事業】 外国語版商店街マップの作成：1件</p>	<p>訪日外国人観光客等の利便性向上や集客のため、Wi-Fiの設置やホームページ・商店街マップ等の外国語版を作成する商店街を支援し、買い物需要を取り込むことにより、訪日外国人観光客を含め商店街の周知拡大に寄与した。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(1/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p>① バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供</p> <p><b>ア 会場周辺駅のバリアフリー化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大会を通じて多くの来街者が訪れる鉄道駅のバリアフリー化を行い、誰でも快適に移動できる交通環境を整えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ J R 関内駅北口</li> <li>○ J R 石川町駅南口</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標時期】 H29～H30</p> <p>【所管局】 都市整備局</p>	<p>(H30年度で終了)</p>	<p>関内駅北口及び石川町駅南口のバリアフリー化を実現したことにより、その周辺における回遊性の向上及びシームレス化を図ることが出来た。課題として、駅舎改良を実施するためには、地元の意見や鉄道事業者など各関係者の意見収集ができる組織等を設けることが望ましい。</p>
<p><b>イ 案内サイン多言語化など、案内環境の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客も含め、多くの来街者が、迷わず、円滑に目的地に到達するための案内環境を整えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○案内サイン等の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇都心臨海部及び新横浜周辺地区において、施設管理者や鉄道事業者などの関係者と連携し、道路・公園・鉄道駅等の案内サインの多言語化、統一化、連続性の確保など、来街者にとって分かりやすい歩行者用の案内・誘導サイン整備の実施</li> <li>◇市営地下鉄駅構内案内サインのリニューアル</li> <li>◇公共サインガイドラインの改定検討</li> </ul> </li> <li>○道路案内標識について、英語表記の改善や反転文字の活用</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標時期】 H30～R3</p> <p>【所管局】 都市整備局、交通局、道路局</p>	<p>桜木町駅(内装改修工事の中で実施)</p>	<p>都心臨海部や新横浜周辺地区、市営地下鉄の駅における、多言語対応の案内サインを整備し、見やすさや滞在環境の向上に繋げることができた。また、高速道路のナンバリング追加、ローマ字から英語表記への修正を実施し、訪日外国人にも分かりやすい道路案内となった。庁内においては、公共サインガイドラインの周知を進め、事業担当課と調整を行ったことにより、案内サインの多言語化など市民や来訪者にとってよりわかりやすい案内サイン整備の計画に繋がった。今後も、案内サインの整備・更新を実施していくとともに、公共サインガイドラインの適切な運用に向けた庁内への周知を進めていく。</p>
<p><b>ウ 公衆無線LAN(Wi-Fi)整備による、通信環境の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みなとみらい21地区等 <ul style="list-style-type: none"> <li>○地区における主要な歩行者空間や結節点の屋外公共空間(公園・港湾緑地等)における、公衆無線LAN(Wi-Fi)の早期整備</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標時期】 H29</p> <p>【所管局】 都市整備局</p>	<p>・Wi-Fi設備の維持管理の実施</p>	<p>みなとみらい21地区等の公共空間において、公費を活用して公衆無線LAN(Wi-Fi)の早期整備を行い、通信環境の向上につなげた。来街者の滞在環境の向上を目指して、引き続き、適切な維持管理を実施していく。</p>
<p><b>エ 広告付案内サイン・公衆無線LAN(Wi-Fi)整備</b></p> <p>国内外からの来街者に快適な滞在環境を提供するため、外国人観光客をはじめ多くの来街者が訪れる横浜都心部の公共空間(道路等)において、訪日外国人等からのニーズの高い公衆無線LAN(Wi-Fi)や、案内サインを整備し、良好な管理運営を行うことで、滞在環境の向上を図ります。</p> <p>【目標時期】 R元</p> <p>【所管局】 都市整備局</p>	<p>・都心臨海部及び新横浜駅周辺の地域における広告付案内サインの整備に向けた検討の実施</p>	<p>都心臨海部・新横浜都心において、公民連携により「広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業」を推進し、ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020大会に合わせ、広告付案内サイン及びWi-Fiを整備した。今後も、更なる広告付案内サイン・公衆無線LANの拡充に向けて、事業者と整備に向けた検討・調整を実施していく。</p>



## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(2/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p><b>オ 良質な宿泊施設の立地促進による、滞在環境の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都心臨海部や新横浜を対象に、宿泊施設の容積率緩和を通じて、外国人旅行者ニーズにも対応した良質な宿泊施設の立地を促進します。</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3 (R4以降も継続予定)</p> <p>【所管局】 都市整備局、建築局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着工に向けて、建築計画を検討中(北仲通北地区 A-1・2地区)</li> </ul>	<p>容積緩和による新規宿泊施設の建築が予定されており、新型コロナウイルス感染症の影響による今後の動向を見据える必要がある。</p>
<p><b>カ きれいな街並みに向けた環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清潔な街並みによる、居心地の良い環境の実現に向けて、会場周辺を対象に、以下の取組を行います。</li> <li>○歩道や市所有地・市所有施設について、大会期間にあわせた清掃等の実施</li> <li>○大会期間にあわせてポイ捨て・歩行喫煙防止のための呼びかけを集中的に実施</li> <li>○喫煙禁止地区の標識・標示・看板等の多言語化</li> <li>○公衆トイレ案内の多言語化、外国人向け利用マナー表示類の充実及び洋便器化等の改修推進</li> <li>○会場周辺や繁華街などのエリアについて、大会期間中、昼間の時間帯にごみが置かれないう、焼却工場に夜間搬入可能な環境整備の実施</li> <li>○多くのお客様を迎える場所の、望ましい公共的機能(公衆トイレ・喫煙所)の検討、整備</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3</p> <p>【所管局】 資源循環局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020 東京2020大会会場周辺歩道の路面洗浄清掃(中区日本大通り他2箇所)を実施</li> </ul>	<p>両大会の開催にあたって、競技会場周辺の歩道を清掃することにより、「きれいなまち横浜」として来街者を迎えることができた。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>試合当日には、喫煙ルールを呼びかけることにより、広く周知・啓発を行うことができた。</p> <p>また、公衆トイレの案内の多言語化や洋便器化等の内部改修により、利便性向上とバリアフリー化を行い、多様な利用者のニーズに対応できるようになった。</p> <p>一方、ごみを公衆トイレに置き去りにする等の状況が未だ見受けられるため、マナー向上は引き続き取り組む必要がある。</p> <p>平成31年1月からは、金沢工場におけるごみ受入24時間化を開始し、夜間及び日曜日の受入を行うとともに、令和3年度からは大型車両の受入も夜間まで拡大し、ごみのない街を推進している。</p> <p>今後も、大規模イベント時でも清潔な状態を維持するため、競技スケジュールや来街者数の動向に応じたポイ捨て防止啓発を継続するとともに、啓発時期・ツールについても再検討し、啓発内容の浸透と定着につなげていく。</p>
<p><b>キ 快適な滞在を支える、安全・安心なまちづくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日あたりの乗降者数10万人以上の駅(21駅)と視覚障害者利用施設の最寄駅(7駅)を対象に鉄道事業者に補助金を交付し、可動式ホーム柵の整備促進を図ります。</li> <li>・警察等と連携した合同査察を定期的実施するなど、繁華街における治安対策を強化します。</li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3 (R4以降も継続予定)</p> <p>【所管局】 都市整備局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助対象28駅のうち、JR横浜線長津田駅、新横浜駅、菊名駅、大口駅、根岸線山手駅、京急東神奈川駅、日ノ出町駅で使用開始予定</li> <li>・横浜都心部(関内・関外、横浜駅、新横浜駅)で消防、防犯、食品衛生、路上適正利用等の啓発を行う合同パトロールを実施(7回)</li> </ul>	<p>可動式ホーム柵整備により、関係者の移動安全性向上につながった。</p> <p>合同パトロールの実施により、安心・安全な繁華街の形成に寄与した。</p> <p>今後も引き続き、都心部の繁華街において、安心・安全なまちづくりを進めていく。</p>
<p><b>ク 都心部公園の公園トイレの洋式化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光公園である山下公園と港の見える丘公園、オリンピック・パラリンピックの野球・ソフトボール会場となる横浜公園のトイレの和式便器を、訪日外国人旅行者も利用しやすい洋式便器へと改修します。</li> </ul> <p>【目標時期】 R元</p> <p>【所管局】 環境創造局</p>	<p>(R元年度で終了)</p>	<p>両大会を契機に、観光公園である山下公園と港の見える丘公園、東京2020大会の会場となった横浜公園のトイレの洋式化を実施し、利便性を向上することができた。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(3/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評(成果・レガシー、課題)
<p><b>ケ 宿泊施設のバリアフリー化の促進</b>            東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、本市を訪れる高齢者・障害者等のお客様が安全かつ快適に過ごせる環境を整えるため、バリアフリー化に取り組む市内の既存の宿泊施設に対し、改修工事等に要する経費の一部を補助します。</p> <p>【目標時期】 R元～R2</p> <p>【所管局】 市民局</p>	<p>申請件数：1件（客室クローゼットのハンガーバーの高さ改修。多目的トイレのオストメイト対応を含む改修）</p>	<p>令和元年の事業開始以降、東京2020大会を契機とした、3件の宿泊施設バリアフリー化を支援した。今後、宿泊施設のバリアフリー化の実績や需要等を庁内関係部署と共有し、本市におけるバリアフリーに関する事業に活用する。</p>
<p><b>② 花や緑による賑わいの創出</b>  <b>ア 都心臨海部の緑花による賑わいづくり</b>            ・公園等の公共施設を中心に、緑花によるまちの賑わいづくりを進めます。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 環境創造局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心臨海部等の緑花による賑わいづくりの推進</li> <li>・緑花の維持管理</li> </ul>	<p>都心臨海部等で花や緑があふれる街を目指し、緑花による賑わいづくりを推進した。今後も、質の高い緑花を良好に育て、街の賑わい創出や横浜の魅力向上に繋げていく。</p>
<p><b>イ 第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催</b>            ・都心臨海部の緑化をはじめ、郊外部での緑の取組を含めて、緑や花で美しい街、横浜を内外にアピールします。</p> <p>【目標時期】 ～H29</p> <p>【所管局】 環境創造局</p>	<p>(H29年度で終了)</p>	<p>花と緑による街の魅力形成、賑わいの創出を図り、快適な滞在環境の整備を行った。</p>
<p><b>ウ ガーデンシティ横浜の推進のための先導的な取組である「ガーデンネックレス横浜」の展開</b>            都心臨海部や郊外部の里山ガーデンを中心として、全市・地域で花と緑による街の魅力形成、賑わいの創出を図り、花や緑で彩られた美しい街、横浜を内外にアピールします。</p> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 環境創造局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心臨海部での花と緑による街の新たな魅力創出と賑わいづくりの実施</li> <li>・郊外部の里山ガーデンでの花と緑による魅力創出</li> <li>・全市での花と緑による魅力創出（各区連携、地域の花いっぱい推進、広報・プロモーションの展開）</li> </ul>	<p>花と緑による街の魅力形成、賑わいの創出を図り、快適な滞在環境の整備を行った。            今後も、引き続きガーデンネックレス横浜を実施し、街の賑わい創出や横浜の魅力向上に繋げていく。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(4/4)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>③ 都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上</p> <p><b>ア 都心臨海部における回遊性の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都心臨海部において、まちの賑わいづくりや回遊性向上を図るため、令和2年6月頃の運行開始を目指し、連節バスを活用した「高度化バスシステム」を導入します。</li> <li>河川や内港地区を中心として、市民等への開放を積極的に行う取組を進めるため、水上交通や水陸両用バスを軸とした新たな水辺の賑わい方策を官民協働で推進します。</li> <li>都心臨海部における現エリアのボート拡充、及びエリア拡大を図り、コミュニティサイクルの更なる利便性向上を推進します。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 都市整備局、交通局、港湾局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュレス化に対応するため、乗車券のクレジットカード決済に対応した機能改修を実施</li> <li>「よこはま運河チャレンジ2021」の実施</li> <li>横浜港と大岡川・中村川の街や風景を楽しむクルーズを実施</li> <li>夜の賑わい創出を目指したクルーズを、文化観光局事業の「ヨルノヨ」と連携して実施</li> <li>運河沿いのスポット・商店街を巡るスタンプラリーの実施</li> <li>災害時の物資輸送訓練などの実施</li> <li>サイクルボートの拡充及び自転車入れ替え</li> </ul>	<p>連節バス「BAYSIDE BLUE」の運行開始やサイクルボートの拡充により、都心臨海部における回遊性の向上に寄与することができた。</p> <p>連節バスは、統一化されたデザインの停留所、初めて訪れる人にも明確にわかるようなルート設定と多言語による案内サインにより、誰にでもわかりやすいものとした。</p> <p>また、キャッシュレス化に向けた、乗車券売機のクレジット対応により、多くの人にご利用いただく環境を整備、世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現に寄与した。</p> <p>一方、官民協働イベント等を通じて、河川と港を繋ぐ航路の認知度が上がっており、更なる水上交通の利用促進を図るため、横浜市観光情報公式サイトにて「横浜観光情報」の『水上アクティビティ』として特集ページを立ち上げた。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、水辺空間活性化に向けた水上交通の社会実験に取り組んでいく。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野:再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します(1/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用</p> <p><b>ア 燃料電池自動車等の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>燃料電池バスや電気自動車などの環境車両を、会場・イベント等で活用することを検討します。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 温暖化対策統括本部、環境創造局、交通局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視しつつ、環境車両のPRを実施</li> <li>環境対策イベントでの展示：2回</li> </ul>	<p>ラグビーワールドカップ2019™を契機に、公用車のナンバープレートを大会仕様のものに付替え、大会の機運醸成に寄与することができた。</p> <p>また、燃料電池バスを環境対策イベントで展示することにより、本市の環境施策をPRすることができた。</p>
<p><b>イ 再生可能エネルギーの活用及びプロモーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大会期間中の会場等での再生可能エネルギー等の活用（グリーン電力証書、市内公共施設での発電、EV・FCVによる給電など）や、焼却工場の余剰電力の活用（会場への自己託送）を検討します。</li> <li>市内4か所の焼却工場を環境スポットとして、ごみ焼却により得られる再生可能エネルギーのプロモーションを行います。</li> <li>○焼却工場が発電した電力で、ごみ収集車を充電するシステムの導入検討</li> <li>○金沢工場、鶴見工場において、隣接する下水道処理施設と連携し、大会期間中、再生可能エネルギーであるバイオマス発電のPRとして、見学受入の充実や焼却工場ライトアップ等の実施</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3</p> <p>【所管局】 温暖化対策統括本部、資源循環局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会期間中、横浜国際総合競技場と横浜スタジアムで使用する電力について、横浜市風力発電所ハマウイングで創出された再生可能エネルギーを使用</li> <li>技術開発・技術革新や他都市の試験・導入状況の調査・研究</li> </ul>	<p>両大会を通じて、競技会場において横浜市風力発電所ハマウイングで創出された再生可能エネルギーを活用でき、「環境先進都市 横浜」として大会を盛り上げる事ができた。</p> <p>また、焼却工場の見学やライトアップにより、再生可能エネルギーであるバイオマス発電のPRを行うことができた。</p> <p>一方、ごみ収集車については、架装部分など独自の装備が多く、使用形態のあった仕様が必要で、技術開発・技術革新は迅速な情報収集に努める。</p> <p>開発中の試験車両による実証試験により、現時点の技術状況を確認し、関係部署と構築した協力関係を今後の試験等に活用していく。</p>
<p>② 環境に配慮したライフスタイルの推進</p> <p><b>ア 環境に配慮したライフスタイルの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大会に向けて、公共交通の利用など温暖化対策の実践等、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発活動を推進します。</li> <li>市民や市内企業の省エネ等による温室効果ガスの排出削減を活用し、大会の横浜市内開催分のカーボンオフセットを検討します。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も、一部継続予定）</p> <p>【所管局】 温暖化対策統括本部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>COOL CHOICE YOKOHAMAを旗印とした取組の促進</li> <li>横浜市地球温暖化対策推進協議会との連携</li> <li>YESの推進（YES講座400回、ライトダウンイベント1回等を予定）</li> <li>参加市民・事業者を募集。</li> <li>令和3年度参加実績：市民約4万人、事業者4者</li> </ul>	<p>脱炭素社会を実現するため、様々なステークホルダーと連携し、普及啓発活動や環境教育を通して、市民・事業者に向けて省エネ行動等を促し、環境に配慮したライフスタイルを推進するとともに、市民の環境に対する意識を高める取組を進めてきた。</p> <p>今後も、環境に対する市民の行動を促す取組を進め、市民・事業者の行動変容の手法を今後の普及啓発に活用していく。</p>
<p><b>イ 3Rの推進や、食品ロス削減の取組の、世界への情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マイバッグ・マイボトルなどのリデュースの取組や、ごみの分別・リサイクルを紹介することで、横浜が推進している3R行動をPRします。</li> <li>国際機関と連携しながら、世界の食糧事情と横浜市の食品ロス削減の取組を世界に情報発信し、資源の重要性をPRします。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 資源循環局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者に合わせた食品ロス削減啓発動画の作成（3本）</li> <li>無印良品 港南台パーズでの食品ロス削減啓発イベントの実施（6月と10月）</li> <li>土壌混合法を実施し、これによって生じた堆肥を有効に活用するグループや団体の活動に対し、必要な物品を支給。（20団体）</li> <li>土壌混合法実施器材の貸出。（累計77団体）</li> <li>土壌混合法等の生ごみ減量化に係る講座を全区で実施。（403回）</li> <li>マイクロプラスチックに関するワークショップ（54組：小学生・保護者1名ずつ）</li> <li>プラごみ削減キャンペーンの実施（6月）</li> <li>食に関わる国連機関や団体と連携し、新しい生活様式に合わせたオンラインイベント（WORLD FOOD NIGHT）を開催。（参加者：約70名）</li> <li>食品ロス削減やプラスチック対策をテーマとしたプロスポーツ選手を起用したポスターの作成・掲示（2,580枚）</li> </ul>	<p>国際機関と連携しながら、世界の食糧事情と横浜市の食品ロス削減の取組及び、本市の3R行動を世界に発信し、資源の重要性をPRすることができた。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野:再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します(2/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>③ <u>みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組の推進</u></p> <p><u>ア みなとみらい2050アクションプランにもとづくスマートなまちづくりの推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エネルギー」「グリーン」「アクティビティ」「エコ・モビリティ」の4分野において、それぞれが連携したスマートなまちづくりを推進します。</li> <li>○パシフィコ横浜等にコージェネレーションシステムを導入し、地域冷暖房施設と連携するなどの、新たな取組の推進</li> <li>○第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催を契機とした、歩いて楽しめる緑化空間の創出</li> <li>○ICTなど、先端技術を活用したイベントの実施</li> <li>○国内で実用化・技術開発の進むパーソナルモビリティなど、多様な次世代移動手段の創出</li> </ul> <p>【目標時期】 H30・R3</p> <p>【所管局】 温暖化対策統括本部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が中心となった取組を推進</li> <li>・パーソナルモビリティを活用したシェアリングサービス実証実験・普及啓発の実施（福祉作業所にくわえ、観光関係施設とも連携して実施）</li> </ul>	<p>まちづくりの一環としての花苗の植え付けなど、地域が中心となった取組を推進することができた。</p> <p>また、地域の企業等を中心とし、地域のイベント内でのICTを活用した取組や、パーソナルモビリティを活用した実証実験・普及啓発等を実施した。</p> <p>パシフィコ横浜や地域冷暖房の熱供給プラントなどでは、CGSを導入し、地域の低炭素化を図った。</p> <p>今後、今回の取組をPRすることで、市民、事業者への脱炭素化に向けた普及啓発に活用する。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します(1/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>① MICE機能や客船の受入環境の強化</p> <p><b>ア MICE機能の強化</b></p> <p>新たなMICE施設の整備運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）にて、PFI事業で整備を進めていた新たなMICE施設（通称：パシフィコ横浜ノース）を令和2年4月に開業します。</li> <li>横浜駅方面からのアクセス性を向上させるため、臨港幹線道路を横断し、パシフィコ横浜ノース及び臨港パークに連絡する歩行者デッキを整備します。</li> </ul> <p>【目標時期】 R2</p> <p>【所管局】 文化観光局、都市整備局、港湾局</p>	<p>(R2年度で終了)</p>	<p>当初計画どおり、パシフィコ横浜ノースをPFI事業により整備し令和2年4月に開業することができた。開業後はPFI事業により適切な維持管理・運営を実施している。</p> <p>また、パシフィコ横浜ノースおよび臨港パークに連絡する歩行者デッキ（キングモール橋）が供用開始し、臨港幹線道路を迂回せず、街中と海側の円滑な移動を可能とした。</p> <p>さらに、キングモール橋エレベーターが供用開始したことで、バリアフリー経路も機能し、円滑な移動を可能とした。</p>
<p><b>イ 客船の誘致・受入機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大さん橋国際客船ターミナルのサービス拡充 <ul style="list-style-type: none"> <li>○出入国管理審査用ブースを増設し、大型客船寄港時の出入国審査に要する時間を短縮するなど、サービス拡充を図ります。</li> <li>○大さん橋1号線の渋滞緩和策として車線の拡幅整備を実施します。</li> </ul> </li> <li>物流ふ頭での客船の受入れ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベイブリッジを通過できない超大型客船の受入等、物流ふ頭での客船受入対応を行います。</li> </ul> </li> <li>新港ふ頭客船ターミナル周辺整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>○大さん橋国際客船ターミナルを補完する客船バース及び公民連携事業により客船ターミナル施設等を整備します。</li> </ul> </li> <li>超大型客船の受入機能強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>○大黒ふ頭において、自動車専用船岸壁の改良に併せて、ベイブリッジを通過できない超大型客船の受入機能を強化します。</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標時期】 H29～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 港湾局</p>	<p>【大さん橋国際客船ターミナル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズの再開に向けたガイドラインや受入条件の検討、策定</li> <li>・拡幅した道路の供用</li> </ul> <p>【新港ふ頭客船ターミナル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成施設を海図に反映させるための水路測量</li> </ul> <p>【大黒ふ頭自動車専用岸壁】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上屋改修工事（T4）の衛生設備（トイレ）および空調設備の供用</li> <li>・自動車専用岸壁の改良等による受入機能強化</li> </ul>	<p>大黒ふ頭では、超大型客船が2隻同時に着岸した際であっても、クルーズによるインバウンド旅客を円滑に受入ることができるようになった。</p> <p>大さん橋国際客船ターミナルや新港ふ頭客船ターミナルでは、引き続き、横浜港を代表する客船クルーズターミナルとして、クルーズによるインバウンド旅客を円滑に受入れ、街の回遊性向上に繋げ、観光による市内経済の活性化を図る。</p> <p>また、円滑な客船受入に向け、引き続き、ガイドラインや受入条件の検討、策定に取り組んでいく。</p>

## 柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します(2/2)

主な取組の内容	R3年度の取組実績	取組の総評（成果・レガシー、課題）
<p>② <u>ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大</u>  <u>ア 企業立地における、横浜の魅力の発掘・構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国企業や外資系企業の見線で、横浜ならではの魅力を把握・構築し、発信します。</li> <li>市内事業者等が市内（みなとみらい21地区等）で実施する、ラグビーワールドカップ2019™を契機としたイベントやコンテンツ情報を集約し、国内外に広く発信します。</li> <li>市内研究開発拠点、中小・ベンチャー企業等のプロダクトの展示の他、テクノロジーやデータを活用したスポーツイベントを開催します。</li> <li>パシフィコ横浜等でのビジネスイベント来場者の参加に向けた市内イノベーション関連施設視察ツアーを実施します。</li> </ul> <p>【目標時期】 R元～R2</p> <p>【所管局】 経済局</p>	<p>(R2年度で終了)</p>	<p>イベント出展等の機会を通じた情報発信や、ラグビーワールドカップ2019™開催にあわせたビジネスイベントの開催と集中的なプロモーションにより、「イノベーション都市・横浜」の魅力を伝えることができた。</p> <p>一方で、都市間競争が、激しくなっている中で、横浜のイノベーション都市としての認知度向上を図る取組を一層強化する必要がある。</p> <p>「イノベーション都市・横浜」の魅力を発信し、「イノベーションによる未来を体感できる街」として、多様な人々を惹きつけることで、国内外から人・企業・投資を呼び込み、横浜経済の持続的な発展につなげていく。</p>
<p><u>イ 外資系企業誘致に向けた効果的なプロモーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜への投資や進出を呼びかけるプレゼンテーションを実施します。</li> <li>横浜に進出した外資系企業の成功事例を発信し、更なる誘致に繋がります。</li> </ul> <p>【目標時期】 ～R3（R4以降も継続予定）</p> <p>【所管局】 経済局</p>	<p>・ジェットロとの連携によるオンラインイベントJBCへの出展（7～9月）、横浜に進出している米国企業の紹介セミナー（7～8月：計3回）の開催</p>	<p>関係機関等と連携し、横浜のビジネス環境の優位性などを効果的にアピールしながら、引き続き、外資系企業の進出を支援していくとともに、市内企業との協業を促進し市内でのビジネス・定着を後押ししていく。</p>